

注3

大学番号：024

[平成30年度設置]

計画の区分： 研究科の専攻の設置又は課程の変更

注1

事前伺い

東京外国語大学大学院 総合国際学研究所博士後期課程
世界言語社会専攻・国際日本専攻

注2

【事前伺い】 設置に係る設置計画履行状況報告書

国立大学法人東京外国語大学
令和2年5月1日現在

作成担当者

担当部局（課）名 総務企画部総務企画課

職名・氏名 評価企画係長 ヤマダ ダイキ
山田 大樹

電話番号 042-330-5152

（夜間） 042-330-5152

F A X 042-330-5599

e-mail soumu-hyouka@tufs.ac.jp

(注) 1 「計画の区分」は設置時の基本計画書「計画の区分」と同様に記載してください。

2 大学院の場合は、表題を「〇〇大学大学院・・・」と記入してください。

設置時から対象学部等の名称変更があった場合には、表題には現在の名称を記載し、その下欄に（ ）書きにて、設置時の旧名称を記載してください。

例) 〇〇大学 △△学部 □□学科

(旧名称：◇◇学科(平成◇◇年度より学科名称変更))

表題は「計画の区分」に従い、記入してください。

例)

- 大学の設置の場合：「〇〇大学」
- 学部の設置の場合：「〇〇大学 △△学部」
- 学部の学科の設置の場合：「〇〇大学 △△学部 □□学科」
- 短期大学の学科の設置の場合：「〇〇短期大学 △△学科」
- 大学院設置の場合：「〇〇大学大学院」
- 大学院の研究科の設置の場合：「〇〇大学大学院 〇〇研究科」
- 大学院の研究科の専攻の設置等の場合：「〇〇大学大学院 〇〇研究科 〇〇専攻(修士課程)」
- 通信教育課程の開設の場合：「〇〇大学 △△学部 □□学科(通信教育課程)」

3 大学番号の欄については、調査対象大学等に対して別途発出する、事務連絡「令和2年度の履行状況報告書の提出について(依頼)」の別紙に記載のある大学番号を記載してください。

目次

総合国際学研究科

＜世界言語社会専攻（D）＞	ページ
1. 調査対象大学等の概要等	1
2. 授業科目の概要	5
3. 施設・設備の整備状況、経費	10
4. 既設大学等の状況	11
5. 教員組織の状況	12
6. 附帯事項等に対する履行状況等	30
7. その他全般的事項	31

＜国際日本専攻（D）＞	ページ
1. 調査対象大学等の概要等	34
2. 授業科目の概要	38
3. 施設・設備の整備状況、経費	42
4. 既設大学等の状況	43
5. 教員組織の状況	44
6. 附帯事項等に対する履行状況等	51
7. その他全般的事項	52

＜別添資料＞	ページ
・東京外国語大学学部・研究科FD委員会規程	55

1 調査対象大学等の概要等

(1) 設置者

国立大学法人東京外国語大学

(2) 大学名

東京外国語大学

(3) 調査対象大学等の位置

〒183-8534

東京都府中市朝日町3-11-1

- (注) ・対象学部等の位置が大学本部の位置と異なる場合、本部の位置を()書きで記入してください。
・対象学部等が複数のキャンパスに所在する場合には、複数のキャンパスの所在地をそれぞれ記載してください。

(4) 管理運営組織

職名	設置時	変更状況	備考
学長	(タテイシ ヒロタカ) 立石 博高 (平成25年4月)	(ハヤシ カヨコ) 林 佳世子 (平成31年4月)	任期満了に伴う変更 (元)
研究科長	(アオヤマ トオル) 青山 亨 (平成29年4月)		

- (注) ・「変更状況」は、変更があった場合に記入し、併せて「備考」に変更の理由と変更年月日、報告年度を()書きで記入してください。

(例) 令和元年度に報告済の内容 → (元)

令和2年度に報告する内容 → (2)

- ・昨年度の報告後から今年度の報告時までに変更があれば、「変更状況」に赤字にて記載(昨年度までに報告された記載があれば、そこに赤字で見え消し修正)するとともに、上記と同様に、「備考」に変更理由等を記入してください。
- ・大学院の場合には、「職名」を「研究科長」等と修正して記入してください。
- ・大学独自の職名を設けていて当該職位がない場合は、各職に相当する職名の方を記載してください。

(5) 調査対象学部等の名称、定員、入学者の状況等

- (注) ・ 当該調査対象の学部等の学科または研究科の専攻等、定員を定めている組織ごとに記入してください（入試区分ごとではありません）。
- ・ なお、課程認定等によりコースや専攻に入学定員を定めている場合は、法令上規定されている最小単位（大学であれば「学科」、短期大学であれば「専攻課程」）でも記載してください。その場合適宜各項目の表を追加してください。
- ・ 様式は、平成28年度開設の4年制の学科の完成年度を越えて報告する場合（令和2年度までの5年間）ですが、完成年度を越えていない場合は修業年限に合わせて作成してください。（修業年限が4年以下の場合には欄を削除し、5年以上の場合には、欄を設けてください。）
- ・ 留学生については、「出入国管理及び難民認定法」別表第一に定められる「『留学』の在留資格（いわゆる「留学ビザ」）により、我が国の大学（大学院を含む。）、短期大学、高等専門学校、専修学校（専門課程）及び我が国の大学に入学するための準備教育課程を設置する教育施設において教育を受ける外国人学生」を記載してください。
- ・ 短期交換留学生など、定員内に含めていない学生については記入しないでください。

(5) - ① 調査対象学部等の名称等

調査対象学部等の名称（学位）	学位又は学科の分野	設置時の計画				備考
		修業年限	入学定員	編入学定員	收容定員	
総合国際学研究所 世界言語社会専攻 博士（学術）	文学関係 社会学・社会福祉学関係	3年	27人	-	81人	変更前の入学定員：30人 （平成31年4月、令和元年度） 基礎となる学部等：総合国際学研究所博士前期課程

- (注) ・ 定員を変更した場合は、「備考」に変更前的人数、変更年月及び報告年度を（ ）書きで記入してください。
- ・ 基礎となる学部等がある場合には、「備考」に基礎となる学部等の名称を記入してください。
- ・ 学生募集停止を予定している場合は、「備考」に「令和〇年度から学生募集停止（予定）」と記載してください。
- ・ 「学位又は学科の分野」には、「認可申請書」又は「設置届出書」の「教育課程等の概要（別記様式第2号（その2の1））」の「学位又は学科の分野」と同様に記入してください。

(5) - ② 調査対象学部等の入学者の状況

区分	平成30年度		令和元年度		令和2年度		平均入学定員超過率	開設年度から報告年度までの平均入学定員超過率	備考
	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期			
A 入学定員	25人 (-) [-]	5人 (-) [-]	22人 (-) [-]	5人 (-) [-]	22人 (-) [-]	5人 (-) [-]	0.91倍	-	
志願者数	43 (-) [21]	7 (-) [6]	47 (-) [18]	6 (-) [6]	26 (-) [13]	() () []			
受験者数	40 (-) [18]	7 (-) [6]	42 (-) [16]	6 (-) [6]	25 (-) [12]	() () []			
合格者数	27 (-) [9]	4 (-) [3]	27 (-) [10]	4 (-) [4]	18 (-) [7]	() () []			
B 入学者数	26 (-) [9]	4 (-) [3]	27 (-) [10]	4 (-) [4]	16 (-) [6]	() () []			
入学定員超過率 B/A	1.00		1.14		0.59				

- (注) ・ 報告年度の5月1日現在の情報を記入してください。（過年度については、各年度末時点の情報として記入してください。）
- ・ （ ）内には、編入学の状況について外数で記入してください。なお、編入学を複数年次で行っている場合には、（（ ）書きとするなどし、その旨を「備考」に付記してください。該当がない年度には「-」を記入してください。
- ・ 転入学生は記入しないでください。
- ・ []内には、留学生の状況について内数で記入してください。該当がない年には「-」を記入してください。
- ・ 学期の区分に従い学生を入学させる場合は、春季入学とその他の学期（春季入学以外の学期区分を設けている場合）に分けて数値を記入してください。春季入学のみの実施の場合は、その他の学期欄は「-」を記入してください。また、その他の学期に入学定員を設けている場合は、備考欄にその人数を記入してください。
- ・ 「入学定員超過率」については、各年度の春季入学とその他を合計した入学定員、入学者数で算出してください。なお、計算の際は小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで記入してください。
- ・ 「平均入学定員超過率」には、開設年度から報告年度までの入学定員超過率の平均を記入してください。計算の際は「入学定員超過率」と同様に行ってください。なお、完成年度を越えて報告書を提出する大学等は、報告年度（令和2年度）から起算した修業年限に相当する期間の入学定員超過率の平均を記載してください。
- ・ 「開設年度から報告年度までの平均入学定員超過率」は、完成年度を越えて報告書を提出する大学等のみ記入してください。完成年度を越えていない場合は「-」を記入してください。

(5) -③ 調査対象学部等の在学者の状況

対象年度 学 年	平成30年度		令和元年度		令和2年度		備 考
	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	
1年次	26 [9] (-)	4 [3] (-)	27 [10] (-)	4 [4] (-)	16 [6] (-)	4 [4] (-)	
2年次	/		26 [9] (-)	3 [2] (-)	27 [9] (-)	3 [2] (-)	
3年次	/		/		26 [9] (-)	0 [-] (-)	
計	30 [12] (-)		60 [25] (-)		76 [30] (-)		

・令和2年5月1日 公表

- (注) ・ 報告年度の5月1日現在の情報を記入してください。(過年度については、各年度末時点の情報として記入してください。)
- ・ []内には、留学生の状況について内数で記入してください。該当がない年度には「-」を記入してください。
 - ・ ()内には、留年者の状況について、内数で記入してください。該当がない年には「-」を記入してください。
 - ・ 編入学生や転入学生も含めて記入してください。その際、備考欄に人数の内訳を記入してください。
 - ・ 学期の区分に従い学生を入学させる場合は、春季入学とその他の学期(春季入学以外の学期区分を設けている場合)に分けて数値を記入してください。春季入学のみの実施の場合は、その他の学期欄は「-」を記入してください。また、その他の学期に入学定員を設けている場合は、備考欄にその人数を記入してください。
 - ・ 「計」については、各年度の春季入学とその他の学期を合計した在学者数、留学生数を記入してください。

(5) -④ 調査対象学部等の退学者等の状況

区分 対象年度	在学者数(b)	退学者数(a)	内訳			主な退学理由 (留学生の理由は[]書き)
			入学した年度	退学者数		
				うち留学生数		
平成30年度	30 人	1 人	平成30年度	1 人	1 人	[進路の再考]
令和元年度	60 人	0 人	平成30年度	0 人	0 人	
			令和元年度	0 人	0 人	
令和2年度	76 人	0 人	平成30年度	0 人	0 人	
			令和元年度	0 人	0 人	
			令和2年度	0 人	0 人	
合 計		1 人		1 人	1 人	

(注)・数字は、報告年度の5月1日現在の数字を記入してください。

- ・各対象年度の在学者数については、対象年度の人数を記入してください。(在学者数から退学者数を減らす必要はありません。)
- ・内訳については、退学した学生が入学した年度ごとに記入してください。また、留学生数欄の人数については、退学者数の内数を記入してください。
- ・在学者数、退学者数には編入学生や転入学生も含めて記入してください。
- ・「主な退学理由」は、下の項目を参考に記入してください。その際、「就学意欲の低下(○人)」というように、その人数も含めて記入してください。
(記入項目例)・就学意欲の低下 ・学力不足 ・他の教育機関への入学・転学 ・海外留学
・就職 ・学生個人の心身に関する事情 ・家庭の事情 ・除籍 ・その他

(5) -⑤ 調査対象学部等の年度ごとの退学者の割合

【平成30年度】

$$\frac{\text{平成30年度の退学者数(a)}}{\text{平成30年度の在学者数(b)}} = \frac{1}{30} = \boxed{3.33} \%$$

【令和元年度】

$$\frac{\text{令和元年度の退学者数(a)}}{\text{令和元年度の在学者数(b)}} = \frac{0}{60} = \boxed{0} \%$$

【令和2年度】

$$\frac{\text{令和2年度の退学者数(a)}}{\text{令和2年度の在学者数(b)}} = \frac{0}{76} = \boxed{0} \%$$

(注)・小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。

2 授業科目の概要

<総合国際学研究科 世界言語社会専攻>

(1) -① 授業科目表

【認可時又は届出時】

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼任	
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手		
共通科目	(研究科共通科目)											
	異分野交流研究1	1-2-3①		2		1						
	異分野交流研究2	1-2-3③		2							1	
	小計(2科目)	-	0	4	0	1	0	0	0	0	0	1
世界言語社会専攻	<言語文化研究プログラム>											
	言語学1	1-2-3①		2		2	1					
	言語学2	1-2-3③		2		2	1					
	言語情報学1	1-2-3①		2		1	1					
	言語情報学2	1-2-3③		2		1	1					
	英語学・英語教育学1	1-2-3①		2		5						
	英語学・英語教育学2	1-2-3③		2		5						
	音声学1	1-2-3①		2		1						
	音声学2	1-2-3③		2		1						
	ヨーロッパ・アメリカ言語論1	1-2-3①		2		4	3					
	ヨーロッパ・アメリカ言語論2	1-2-3③		2		4	3					
	アジア・アフリカ言語論1	1-2-3①		2		6	8					
	アジア・アフリカ言語論2	1-2-3③		2		6	8					
	ヨーロッパ・アメリカ文学・文化論1	1-2-3①		2		5	4					
	ヨーロッパ・アメリカ文学・文化論2	1-2-3③		2		5	4					
	アジア・アフリカ文学・文化論1	1-2-3①		2		5	4					
	アジア・アフリカ文学・文化論2	1-2-3③		2		5	4					
	人間文化論1	1-2-3①		2		1	1					
	人間文化論2	1-2-3③		2		1	1					
	<国際社会研究プログラム>											
	現代世界論1	1-2-3①		2		2	1					
	現代世界論2	1-2-3③		2		2	1					
	ヨーロッパ・アメリカ地域研究1	1-2-3①		2		3	3					
	ヨーロッパ・アメリカ地域研究2	1-2-3③		2		3	3					
	アジア・アフリカ・オセアニア地域研究1	1-2-3①		2		6	4					
	アジア・アフリカ・オセアニア地域研究2	1-2-3③		2		6	4					
	国際関係論1	1-2-3①		2		2	3					
	国際関係論2	1-2-3③		2		2	3					
	<Peace and Conflict Studies プログラム>											
	Applied Peacebuilding 1	1-2-3①		2		1						
	Applied Peacebuilding 2	1-2-3③		2		1						
	Conflict and Social Change 1	1-2-3①		2		1						
	Conflict and Social Change 2	1-2-3③		2		1						
	Foundation for Peacebuilding 1	1-2-3①		2		1						
	Foundation for Peacebuilding 2	1-2-3③		2		1						
	<アジア・アフリカフィールド研究プログラム>											
	アジア・アフリカフィールド言語学1	1-2-3①		2		5						
	アジア・アフリカフィールド言語学2	1-2-3③		2		5						
	アジア・アフリカフィールド人類学1	1-2-3①		2		3	1					
	アジア・アフリカフィールド人類学2	1-2-3③		2		3	1					
アジア・アフリカフィールド地域研究1	1-2-3①		2		4	5						
アジア・アフリカフィールド地域研究2	1-2-3③		2		4	5						
アジア・アフリカフィールドワーク1	1-2-3①		2		1	1						
アジア・アフリカフィールドワーク2	1-2-3③		2		1	1						
小計(40科目)	-	0	80	0	58	39	0	0	0	0	0	
合計(42科目)	-	0	84	0	58	39	0	0	0	0	1	
卒業要件及び履修方法												
在学期間中に研究科共通科目、または世界言語社会専攻で開講される授業科目を履修し、12単位以上を修得する。なお、総合国際学研究科国際日本専攻の科目を、4単位を上限に、修了所要単位に含めることができる。												

【令和2年度】

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼任	
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手		
共通科目	(研究科共通科目)											
	異分野交流研究1	1-2-3①		2		1	1					
	異分野交流研究2	1-2-3③		2		2	1				1	
	小計(2科目)	-	0	4	0	2	1	0	0	0	0	1
世界言語社会専攻	<言語文化研究プログラム>											
	言語学1	1-2-3①		2		1	2					
	言語学2	1-2-3③		2		2	2					
	言語情報学1	1-2-3①		2		1	1					
	言語情報学2	1-2-3③		2		1	1					
	英語学・英語教育学1	1-2-3①		2		5	1					
	英語学・英語教育学2	1-2-3③		2		5	1					
	音声学1	1-2-3①		2		2						
	音声学2	1-2-3③		2		1						
	ヨーロッパ・アメリカ言語論1	1-2-3①		2		7	2					
	ヨーロッパ・アメリカ言語論2	1-2-3③		2		7	2					
	アジア・アフリカ言語論1	1-2-3①		2		5	8					
	アジア・アフリカ言語論2	1-2-3③		2		5	8					
	ヨーロッパ・アメリカ文学・文化論1	1-2-3①		2		6	3					
	ヨーロッパ・アメリカ文学・文化論2	1-2-3③		2		6	3					
	アジア・アフリカ文学・文化論1	1-2-3①		2		7	4					
	アジア・アフリカ文学・文化論2	1-2-3③		2		7	4					
	人間文化論1	1-2-3①		2		1	1					
	人間文化論2	1-2-3③		2		1	1					
	<国際社会研究プログラム>											
	現代世界論1	1-2-3①		2		5	1					
	現代世界論2	1-2-3③		2		5	1					
	ヨーロッパ・アメリカ地域研究1	1-2-3①		2		4	4					
	ヨーロッパ・アメリカ地域研究2	1-2-3③		2		4	5					
	アジア・アフリカ・オセアニア地域研究1	1-2-3①		2		11	6					
	アジア・アフリカ・オセアニア地域研究2	1-2-3③		2		11	6					
	国際関係論1	1-2-3①		2		3	2					
	国際関係論2	1-2-3③		2		3	2					
	<Peace and Conflict Studies プログラム>											
	Applied Peacebuilding 1	1-2-3①		2		1						
	Applied Peacebuilding 2	1-2-3③		2		1						
	Conflict and Social Change 1	1-2-3①		2		1						1
	Conflict and Social Change 2	1-2-3③		2		1						1
	Foundation for Peacebuilding 1	1-2-3①		2		1						
	Foundation for Peacebuilding 2	1-2-3③		2		0						
	<アジア・アフリカフィールド研究プログラム>											
	アジア・アフリカフィールド言語学1	1-2-3①		2		7	5					
	アジア・アフリカフィールド言語学2	1-2-3③		2		7	5					
	アジア・アフリカフィールド人類学1	1-2-3①		2		3	2					
	アジア・アフリカフィールド人類学2	1-2-3③		2		3	2					
アジア・アフリカフィールド地域研究1	1-2-3①		2		7	5						
アジア・アフリカフィールド地域研究2	1-2-3③		2		7	5						
アジア・アフリカフィールドワーク1	1-2-3①		2		1	1						
アジア・アフリカフィールドワーク2	1-2-3③		2		1	1						
小計(40科目)	-	0	80	0	80	49	0	0	0	0	1	
合計(42科目)	-	0	84	0	80	49	0	0	0	0	2	
卒業要件及び履修方法												
在学期間中に研究科共通科目、または世界言語社会専攻で開講される授業科目を履修し、12単位以上を修得する。なお、総合国際学研究科国際日本専攻の科目を、4単位を上限に、修了所要単位に含めることができる。												

【平成30年度】

【令和元年度】

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼任	
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手		
共通科目	(研究科共通科目)											
	異分野交流研究1	1-2-30	2			1	1					
	異分野交流研究2	1-2-33	2			2	1					1
	小計(2科目)	-	0	4	0	3	0	0	0	0	0	1
世界言語社会専攻	<言語文化研究プログラム>											
	言語学1	1-2-30	2			2	1					
	言語学2	1-2-33	2			2	1					
	言語情報学1	1-2-30	2			1	1					
	言語情報学2	1-2-33	2			1	1					
	英語学・英語教育学1	1-2-30	2			6						
	英語学・英語教育学2	1-2-33	2			6						
	音声学1	1-2-30	2			2						
	音声学2	1-2-33	2			2						
	ヨーロッパ・アメリカ言語論1	1-2-30	2			6	3					
	ヨーロッパ・アメリカ言語論2	1-2-33	2			6	3					
	アジア・アフリカ言語論1	1-2-30	2			4	9					
	アジア・アフリカ言語論2	1-2-33	2			5	9					
	ヨーロッパ・アメリカ文学・文化論1	1-2-30	2			6	5					
	ヨーロッパ・アメリカ文学・文化論2	1-2-33	2			6	5					
	アジア・アフリカ文学・文化論1	1-2-30	2			9	4					
	アジア・アフリカ文学・文化論2	1-2-33	2			9	5					
	人間文化論1	1-2-30	2			1	1					
	人間文化論2	1-2-33	2			1	1					
	<国際社会研究プログラム>											
	現代世界論1	1-2-30	2			5	1					
	現代世界論2	1-2-33	2			5	1					
	ヨーロッパ・アメリカ地域研究1	1-2-30	2			5	4					
	ヨーロッパ・アメリカ地域研究2	1-2-33	2			5	4					
	アジア・アフリカ・オセアニア地域研究1	1-2-30	2			9	6					
	アジア・アフリカ・オセアニア地域研究2	1-2-33	2			9	6					
	国際関係論1	1-2-30	2			4	2					
	国際関係論2	1-2-33	2			4	2					
	<Peace and Conflict Studies プログラム>											
	Applied Peacebuilding 1	1-2-30	2			1						
	Applied Peacebuilding 2	1-2-30	2			1						
	Conflict and Social Change 1	1-2-30	2			1						1
	Conflict and Social Change 2	1-2-30	2			1						1
	Foundation for Peacebuilding 1	1-2-30	2			1						
	Foundation for Peacebuilding 2	1-2-30	2			1						
	<アジア・アフリカフィールド研究プログラム>											
	アジア・アフリカフィールド言語学1	1-2-30	2			6	5					
	アジア・アフリカフィールド言語学2	1-2-33	2			6	5					
	アジア・アフリカフィールド人類学1	1-2-30	2			4	1					
	アジア・アフリカフィールド人類学2	1-2-33	2			4	1					
アジア・アフリカフィールド地域研究1	1-2-30	2			8	4						
アジア・アフリカフィールド地域研究2	1-2-33	2			8	4						
アジア・アフリカフィールドワーク1	1-2-30	2			1	1						
アジア・アフリカフィールドワーク2	1-2-33	2			1	1						
小計(40科目)	-	0	80	0	82	48	0	0	0	0	1	
合計(42科目)	-	0	84	0	82	48	0	0	0	0	2	

卒業要件及び履修方法

在学期間中に研究科共通科目、または世界言語社会専攻で開講される授業科目を履修し、12単位以上を修得する。なお、総合国際学研究所国際日本専攻の科目を、4単位を上限に、修了所要単位に含めることができる。

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼任	
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手		
共通科目	(研究科共通科目)											
	異分野交流研究1	1-2-30	2			2						
	異分野交流研究2	1-2-33	2			3						1
	小計(2科目)	-	0	4	0	3	0	0	0	0	0	1
世界言語社会専攻	<言語文化研究プログラム>											
	言語学1	1-2-30	2			2	2					
	言語学2	1-2-33	2			2	2					
	言語情報学1	1-2-30	2			1	1					
	言語情報学2	1-2-33	2			1	1					
	英語学・英語教育学1	1-2-30	2			5	1					
	英語学・英語教育学2	1-2-33	2			5	1					
	音声学1	1-2-30	2			2						
	音声学2	1-2-33	2			2						
	ヨーロッパ・アメリカ言語論1	1-2-30	2			6	3					
	ヨーロッパ・アメリカ言語論2	1-2-33	2			6	3					
	アジア・アフリカ言語論1	1-2-30	2			5	8					
	アジア・アフリカ言語論2	1-2-33	2			5	8					
	ヨーロッパ・アメリカ文学・文化論1	1-2-30	2			7	3					
	ヨーロッパ・アメリカ文学・文化論2	1-2-33	2			7	3					
	アジア・アフリカ文学・文化論1	1-2-30	2			4	5					
	アジア・アフリカ文学・文化論2	1-2-33	2			5	5					
	人間文化論1	1-2-30	2			1	1					
	人間文化論2	1-2-33	2			1	1					
	<国際社会研究プログラム>											
	現代世界論1	1-2-30	2			6	1					
	現代世界論2	1-2-33	2			6	1					
	ヨーロッパ・アメリカ地域研究1	1-2-30	2			4	5					
	ヨーロッパ・アメリカ地域研究2	1-2-33	2			2	5					
	アジア・アフリカ・オセアニア地域研究1	1-2-30	2			10	5					
	アジア・アフリカ・オセアニア地域研究2	1-2-33	2			9	6					
	国際関係論1	1-2-30	2			3	1					
	国際関係論2	1-2-33	2			3	1					
	<Peace and Conflict Studies プログラム>											
	Applied Peacebuilding 1	1-2-30	2			1						
	Applied Peacebuilding 2	1-2-30	2			1						
	Conflict and Social Change 1	1-2-30	2			1						1
	Conflict and Social Change 2	1-2-30	2			1						1
	Foundation for Peacebuilding 1	1-2-30	2			1						
	Foundation for Peacebuilding 2	1-2-30	2			1						
	<アジア・アフリカフィールド研究プログラム>											
	アジア・アフリカフィールド言語学1	1-2-30	2			6	6					
	アジア・アフリカフィールド言語学2	1-2-33	2			6	6					
	アジア・アフリカフィールド人類学1	1-2-30	2			4	1					
	アジア・アフリカフィールド人類学2	1-2-33	2			4	1					
アジア・アフリカフィールド地域研究1	1-2-30	2			8	4						
アジア・アフリカフィールド地域研究2	1-2-33	2			8	4						
アジア・アフリカフィールドワーク1	1-2-30	2			1	1						
アジア・アフリカフィールドワーク2	1-2-33	2			1	1						
小計(40科目)	-	0	80	0	78	50	0	0	0	0	1	
合計(42科目)	-	0	84	0	78	50	0	0	0	0	2	

卒業要件及び履修方法

在学期間中に研究科共通科目、または世界言語社会専攻で開講される授業科目を履修し、12単位以上を修得する。なお、総合国際学研究所国際日本専攻の科目を、4単位を上限に、修了所要単位に含めることができる。

- (注) ・ 報告年度の5月1日現在の情報を記入してください。(過年度については、各年度末時点の情報として記入してください。)
- ・ 認可申請書又は設置届出書の様式第2号(その2の1)に準じて作成してください。
 - ・ 各欄の作成方法は「大学の設置等に係る提出書類作成の手引き」の「教育課程等の概要」を確認してください。
 - ・ 「認可時又は届出時」には 設置認可時又は届出時の授業科目全て(兼任、兼任教員が担当する科目を含む。)を黒字で記入してください。その上で、各年度については、認可時又は届出時から変更となっている箇所は**赤字**としてください。
 - ・ 履修希望者がいなかったために未開講となった科目についても科目名の後ろに「(未開講)」として記入してください。
 - ・ 1ページ目には認可時又は届出時と報告年度2つの表を記入してください。
 - ・ 不要な年度(平成30年度開設であれば平成29年度)の表は適宜削除してください。(2つの表が1ページに表示されるようにしてください。)
 - ・ 専門職大学等の場合、「実験、実習又は実技による授業科目」には「【※】」、「臨地実務実習」による授業科目には「【臨】」、「連携実務演習」による授業科目には「【連】」を授業科目の名称の右側に記入してください。

(1) ②授業科目表に関する変更内容

【平成30年度】

- ・教育内容充実のため、「異分野交流研究1」の専任教員等の配置を「准教授0」から「准教授1」に変更。
- ・教育内容充実のため、「異分野交流研究2」の専任教員等の配置を「教授0」「准教授0」から「教授2」「准教授1」に変更。
- ・教育内容充実のため、「英語学・英語教育学1・2」の専任教員等の配置を「教授5」から「教授6」に変更。
- ・教育内容充実のため、「音声学1・2」の専任教員等の配置を「教授1」から「教授2」に変更。
- ・指導体制強化及び専任教員昇任のため、「ヨーロッパ・アメリカ言語論1・2」の専任教員等の配置を「教授4」から「教授6」に変更。
- ・指導体制強化、担当予定教員死去、専任教員特別研修のため、「アジア・アフリカ言語論1」の専任教員等の配置を「教授6」「准教授8」から「教授4」「准教授9」に変更。
- ・担当予定教員死去、指導体制強化のため、「アジア・アフリカ言語論2」の専任教員等の配置を「教授6」「准教授8」から「教授5」「准教授9」に変更。
- ・教育内容充実のため、「ヨーロッパ・アメリカ文学・文化論1・2」の専任教員等の配置を「教授5」「准教授4」から「教授6」「准教授5」に変更。
- ・教育内容の充実、科目内容を考慮した担当変更、指導体制強化、専任教員特別研修のため、「アジア・アフリカ文学・文化論1」の専任教員等の配置を「教授5」から「教授9」に変更。
- ・教育内容の充実、科目内容を考慮した担当変更、指導体制強化のため、「アジア・アフリカ文学・文化論2」の専任教員等の配置を「教授5」「准教授4」から「教授9」「准教授5」に変更。
- ・教育内容の充実のため、「現代世界論1・2」の専任教員等の配置を「教授2」から「教授5」に変更。
- ・教育内容の充実、指導体制強化のため、「ヨーロッパ・アメリカ地域研究1・2」の専任教員等の配置を「教授3」「准教授3」から「教授5」「准教授4」に変更。
- ・教育内容の充実、指導体制の強化、科目内容を考慮した担当変更のため、「アジア・アフリカ・オセアニア地域研究1・2」の専任教員等の配置を「教授6」「准教授4」から「教授9」「准教授6」に変更。
- ・教育内容の充実、専任教員昇任のため「国際関係論1・2」の専任教員等の配置を「教授2」「准教授3」から「教授4」「准教授2」に変更。
- ・教育内容の充実のため、「Conflict and Social Change1・2」の担当に、兼任教員を1名追加。
- ・教育内容の充実のため、「アジア・アフリカフィールド言語学1・2」の専任教員等の配置を「教授5」「准教授0」から「教授6」「准教授5」に変更。
- ・教育内容の充実のため、「アジア・アフリカフィールド人類学1・2」の専任教員等の配置を「教授3」から「教授4」に変更。
- ・教育内容の充実、専任教員昇任のため、「アジア・アフリカフィールド地域研究1・2」の専任教員等の配置を「教授4」「准教授5」から「教授8」「准教授4」に変更。
- ・秋入学に則した配当学期とするため、「Applied Peacebuilding1・2」「Conflict and Social Change1・2」「Foundation for Peacebuilding1・2」の配当学期を変更。

【令和元年度】

- ・科目内容を考慮した担当変更のため、「異分野交流研究1」の専任教員等の配置を「教授1」「准教授1」から「教授2」に変更。
- ・科目内容を考慮した担当変更のため、「異分野交流研究2」の専任教員等の配置を「教授2」「准教授1」から「教授3」に変更。
- ・指導体制強化ため、「言語学1・2」の専任教員等の配置を「准教授1」から「准教授2」に変更。
- ・担当教員の退職、指導体制強化のため、「英語学・英語教育学1・2」の専任教員等の配置を「教授6」から「教授5」「准教授1」に変更。
- ・担当教員の退職、2018年度専任教員特別研修のため未開講であった科目の開講のため「アジア・アフリカ言語論1」の専任教員等の配置を「教授4」「准教授9」から「教授5」「准教授8」に変更。
- ・担当教員の退職のため「アジア・アフリカ言語論2」の専任教員等の配置を「准教授9」から「准教授8」に変更。
- ・専任教員昇任、担当教員の退職のため、「ヨーロッパ・アメリカ文学・文化論1・2」の専任教員等の配置を「教授6」「准教授5」から「教授7」「准教授3」に変更。
- ・担当教員の退職、専任教員特別研修、担当教員学長就任、2018年度専任教員特別研修のため未開講であった科目の開講のため、「アジア・アフリカ文学・文化論1」の専任教員等の配置を「教授9」「准教授4」から「教授4」「准教授5」に変更。
- ・担当教員の退職、担当教員学長就任のため、「アジア・アフリカ文学・文化論2」の専任教員等の配置を「教授9」「准教授5」から「教授5」「准教授5」に変更。
- ・指導体制強化のため、「現代世界論1・2」の専任教員等の配置を「教授5」から「教授6」に変更。
- ・担当教員の退職、専任教員特別研修、指導体制強化のため、「ヨーロッパ・アメリカ地域研究1」の専任教員等の配置を「教授5」「准教授4」から「教授4」「准教授5」に変更。
- ・担当教員の退職、専任教員特別研修、指導体制強化のため、「ヨーロッパ・アメリカ地域研究2」の専任教員等の配置を「教授5」「准教授4」から「教授2」「准教授5」に変更。
- ・専任教員特別研修、指導体制の強化、専任教員昇任のため、「アジア・アフリカ・オセアニア地域研究1」の専任教員等の配置を「教授9」「准教授6」から「教授10」「准教授5」に変更。
- ・担当教員の退職、授業担当見直しのため「国際関係論1・2」の専任教員等の配置を「教授4」「准教授2」から「教授3」「准教授1」に変更。
- ・指導体制の強化のため、「アジア・アフリカフィールド言語学1・2」の専任教員等の配置を「准教授5」から「准教授6」に変更。

【令和2年度】

- ・科目内容を考慮した担当変更のため、「異分野交流研究1」の専任教員等の配置を「教授2」から「教授1」「准教授1」に変更。
- ・科目内容を考慮した担当変更のため、「異分野交流研究2」の専任教員等の配置を「教授3」から「教授2」「准教授1」に変更。
- ・専任教員特別研修のため、「言語学1」「音声学2」の専任教員等の配置を「教授2」から「教授1」に変更。
- ・担当教員の退職のため、「ヨーロッパ・アメリカ文学・文化論1・2」の専任教員等の配置を「教授7」から「教授6」に変更。
- ・専任教員昇任、2019年度専任教員特別研修のため未開講であった科目の開講のため、「アジア・アフリカ文学・文化論1」の専任教員等の配置を「教授4」「准教授5」から「教授7」「准教授4」に変更。
- ・専任教員昇任、指導体制強化のため、「アジア・アフリカ文学・文化論2」の専任教員等の配置を「教授5」「准教授5」から「教授7」「准教授4」に変更。
- ・担当教員の退職のため「現代世界論1・2」の専任教員等の配置を「教授6」から「教授5」に変更。
- ・担当教員の在外研究のため、「ヨーロッパ・アメリカ地域研究1」の専任教員等の配置を「教授4」「准教授5」から「教授4」「准教授4」に変更。
- ・2019年度専任教員特別研修のため未開講であった科目の開講のため、「ヨーロッパ・アメリカ地域研究2」の専任教員等の配置を「教授2」「准教授5」から「教授4」「准教授5」に変更。
- ・指導体制の強化、専任教員昇任、2019年度専任教員特別研修のため未開講であった科目の開講のため、「アジア・アフリカ・オセアニア地域研究1」の専任教員等の配置を「教授10」「准教授5」から「教授11」「准教授6」に変更。
- ・指導体制の強化、専任教員昇任、2019年度専任教員特別研修のため未開講であった科目の開講のため、「アジア・アフリカ・オセアニア地域研究2」の専任教員等の配置を「教授9」「准教授6」から「教授11」「准教授6」に変更。
- ・指導体制の強化のため、「国際関係論1・2」の専任教員等の配置を「教授3」「准教授1」から「教授3」「准教授2」に変更。
- ・担当教員の特別研修のため、「Foundation for Peacebuilding 1」を未開講。
- ・専任教員昇任のため、「アジア・アフリカフィールド言語学1・2」の専任教員等の配置を「教授6」「准教授6」から「教授7」「准教授5」に変更。

- (注) ・ 2(1)一① 授業科目表に記入された各年度における変更内容(配当年次の変更、専任教員等の配置の変更、授業科目名の変更、新規科目の追加など)を箇条書きで記入してください。変更がない年度は「特になし。」と記入してください。
- ・ 変更内容には、授業科目の未開講や廃止については記入しないでください。
 - ・ 不要な年度(平成30年度開設であれば平成29年度)の表は適宜削除してください。

(2) 授業科目数

設置時の計画				変更状況				備考
必修	選択	自由	計(A)	必修	選択	自由	計	
0 科目	42 科目	0 科目	42 科目	0 科目 [0]	42 科目 [0]	0 科目 [0]	42 科目 [0]	

- (注) ・ 未開講科目も含めた教育課程上の授業科目数を記入するとともに、[]内に、設置時の計画からの増減を記入してください。(記入例: 1科目減の場合: △1)

(3) 未開講科目

番号	授業科目名	単位数	配当年次	一般・専門	必修・選択	未開講の理由、代替措置の有無
1	Foundation for Peacebuilding 1	2	1・2・3①	専門	選択	担当教員特別研修のため、代替措置無
2						
3						

- (注) ・ 配当年次に達しているにも関わらず、何らかの理由で未開講となっている授業科目について記入してください。なお、理由については可能な限り具体的に記入してください。
- ・ 履修希望者がいなかったために未開講となった科目については記入しないでください。
 - ・ 教職大学院の場合は、「一般・専門」を「共通・実習・その他」と修正して記入してください。
 - ・ 専門職大学等の場合は、「一般・専門」を「基礎、展開、職業専門、総合」と修正して記入してください。

(4) 廃止科目

番号	授業科目名	単位数	配当年次	一般・専門	必修・選択	廃止の理由、代替措置の有無
1						
2			該当なし			
3						

- (注) ・ 設置時の計画にあり、何らかの理由で廃止（教育課程から削除）した授業科目について記入してください。なお、理由については可能な限り具体的に記入してください。
- ・ 教職大学院の場合は、「一般・専門」を「共通・実習・その他」として記入してください。
 - ・ 専門職大学等の場合は、「一般・専門」を「基礎、展開、職業専門、総合」と修正して記入してください。

(5) 授業科目を未開講又は廃止としたことに係る「大学の所見」及び「学生への周知方法」

<p>【大学の所見】 半期のみ未開講であり、修了までに必要な科目履修に影響しないと考える。</p> <p>【学生への周知方法】 授業時間割には閉講であることを明記し、履修計画に影響のないよう周知した。</p>
--

- (注) ・ 授業科目を未開講又は廃止としたことによる学生の履修への影響に関する大学の所見、学生への周知方法、今後の方針などを可能な限り具体的に記入してください。

(6) 「設置時の計画の授業科目数の計」に対する「未開講科目と廃止科目の計」の割合

$$\frac{\text{未開講科目 (3) と廃止科目 (4) の計}}{\text{設置時の計画の授業科目数の計 (A)}} = \frac{1}{42} = \boxed{2.38\%}$$

- (注) ・ 小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。
- ・ 「未開講科目と廃止科目の計」が、「(3) 未開講科目」と「(4) 廃止科目」の合計数となるように留意してください。

3 施設・設備の整備状況、経費

区 分		内 容				備 考			
(1) 校 地 等	区 分	専 用	共 用	共用する他の 学校等の専用	計				
	校舎敷地	94,250 m ²	0 m ²	0 m ²	94,250 m ²				
	運動場用地	27,758 m ²	0 m ²	0 m ²	27,758 m ²				
	小 計	122,008 m ²	0 m ²	0 m ²	122,008 m ²				
	そ の 他	7,992 m ²	0 m ²	0 m ²	7,992 m ²				
	合 計	130,000 m ²	0 m ²	0 m ²	130,000 m ²				
(2) 校 舎	専 用	42,158 m ²	0 m ²	0 m ²	42,158 m ²				
	(42,158 m ²)	(0 m ²)	(0 m ²)	(0 m ²)	(42,158 m ²)				
(3) 教 室 等	講 義 室	43 42 室	演 習 室 42 39 42 室	実験実習室 1 室	情報処理学習施設 6 室 (補助職員 0 人)	語学学習施設 3 4 室 (補助職員 5 人)	大学全体 利用目的変更(元) 利用目的変更(2)		
	(4) 専任教員研究室		新設学部等の名称		室 数		専任教員の追加に伴う 変更(2)		
		世界言語社会専攻		129 428 室					
(5) 図 書 ・ 設 備	新設学部等の 名称	図 書 〔うち外国書〕 冊	学術雑誌 〔うち外国書〕 種		視聴覚資料 点	機 械 ・ 器 具 点	標 本 点	大学全体 受入・廃棄等に伴う変 更(元) 受入・廃棄等に伴う変 更(2)	
			電子ジャーナル 〔うち外国書〕						
	世界言語社会専攻	855,261 [463,980] (870,918 [472,776]) (867,836 [471,588]) (863,350 [467,428])	9,607 [3,370] (10,023 [3,727]) (9,909 [3,668]) (9,769 [3,565])	6,473 [5,904] (18,165 [14,744]) (8,426 [8,426]) (6,473 [5,904])	1188 (1,188)	7 (7)	0 (0)		
	計	855,261 [463,980] (870,918 [472,776]) (867,836 [471,588]) (863,350 [467,428])	9,607 [3,370] (10,023 [3,727]) (9,909 [3,668]) (9,769 [3,565])	6,473 [5,904] (18,165 [14,744]) (8,426 [8,426]) (6,473 [5,904])	1188 (1,188)	7 (7)	0 (0)		
(6) 図 書 館	面 積		閱 覧 座 席 数		収 納 可 能 冊 数		大学全体		
	6,930m ²		564席		689,694冊				
(7) 体 育 館	面 積		体 育 館 以 外 の ス ポ ー ツ 施 設 の 概 要				大学全体		
	3,040 m ²		テニスコート 5 面						
(8) 経費の見積り及び維持方法の概要	経費の見積り	区 分	開設年度	完成年度	区 分	開設前年度	開設年度	完成年度	
		教員 1 人 当 り 研 究 費 等	千円	千円	図書購入費	千円	千円	千円	
		共 同 研 究 費 等	千円	千円	設備購入費	千円	千円	千円	
	学生 1 人 当 り 納 付 金	第 1 年 次	第 2 年 次	第 3 年 次	第 4 年 次	第 5 年 次	第 6 年 次		
		千円	千円	千円	千円	千円	千円		
学生納付金以外の維持方法の概要									

(注) ・ 設置時の計画を、申請書の様式第2号(その1の1)に準じて作成してください。(複数のキャンパスに分かれている場合、複数の様式に分ける必要はありません。なお、「(1)校地等」及び「(2)校舎」は大学全体の数字を、その他の項目はAC対象学部等の数値を記入してください。)

- ・ 運動場用地が校舎敷地と別地にある場合は、その旨(所要時間・距離等)を「備考」に記入してください。
- ・ 「(5)図書・設備」については、上段に完成年度の予定数値を、下段には令和2年5月1日現在の数値を記入してください。
- ・ 昨年度の報告後から今年度の報告時までに変更のあったものについては、変更部分を赤字で見え消し修正するとともに、その理由及び報告年度「(2)」を「備考」に赤字で記入してください。
なお、昨年度の報告において赤字で見え消した部分については、見え消しのまま黒字にしてください。
- ・ 校舎等建物の計画の変更(校舎又は体育館の総面積の減少、建築計画の遅延)がある場合には、「建築等設置計画変更書」を併せて提出してください。
なお、昨年度の報告において赤字で見え消した部分については、黒字で記入してください。
- ・ 国立大学については「(8)経費の見積り及び維持方法の概要」は記載不要です。

4. 既設大学等の状況

大学の名称		東京外国語大学									備考
既設学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	平均入学定員超過率	令和2年度入学定員超過率	定員変更年度(AC期間の学科のみ)	開設年度	所在地	
	年	人	年次人	人		倍	倍	年度	年度	年度	
言語文化学部 言語文化学科	4	335	3年次 15	1,440	学士(言語・地域文化)	1.04	1.04	平成31年度	平成24年度	東京都府中市朝日町三丁目11番1号	入学定員変更(△35) 令和3年度から編入学定員変更(△5)予定
国際社会学部 国際社会学科	4	335	3年次 15	1,450	学士(言語・地域文化)	1.05	1.00	平成31年度	平成24年度	同上	入学定員変更(△40) 令和3年度から編入学定員変更(△5)予定
国際日本学部 国際日本学科	4	75	3年次 10	150	学士(言語・地域文化)	1.09	1.10	-	平成31年度	同上	
大学全体	4	745	30	3,040	-	-	-	-	-	-	
大学の名称		東京外国語大学大学院									備考
既設学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	平均入学定員超過率	令和2年度入学定員超過率	定員変更年度(AC期間の学科のみ)	開設年度	所在地	
	年	人	年次人	人		倍	倍	年度	年度	年度	
総合国際学研究所 博士前期課程											
世界言語社会専攻	2	102	-	204	修士(学術) 修士(文学) 修士(言語学) 修士(国際学)	0.88	0.77	-	平成28年度	同上	
国際日本専攻	2	46	-	86	修士(学術) 修士(文学) 修士(言語学) 修士(国際学)	0.97	0.89	-	平成28年度	同上	
言語文化専攻	2	-	-	-	修士(学術) 修士(文学) 修士(言語学) 修士(国際学)	-	-	-	平成19年度	同上	平成28年度より学生募集停止
言語応用専攻	2	-	-	-	修士(学術) 修士(文学) 修士(言語学) 修士(国際学)	-	-	-	平成19年度	同上	平成28年度より学生募集停止
地域・国際専攻	2	-	-	-	修士(学術) 修士(文学) 修士(言語学) 修士(国際学)	-	-	-	平成19年度	同上	平成28年度より学生募集停止
国際協力専攻	2	-	-	-	修士(学術) 修士(文学) 修士(言語学) 修士(国際学)	-	-	-	平成19年度	同上	平成28年度より学生募集停止
博士後期課程											
世界言語社会専攻	3	27	-	84	博士(学術)	0.91	0.59	平成31年度	平成30年度	同上	入学定員変更(△3)
国際日本専攻	3	10	-	30	博士(学術)	1.00	1.00	-	平成30年度	同上	
共同サステイナビリティ研究専攻	3	3	-	6	博士(学術)	0.83	0.33	-	平成31年度	同上	
言語文化専攻	3	-	-	-	博士(学術)	-	-	-	平成21年度	同上	平成30年度より学生募集停止
国際社会専攻	3	-	-	-	博士(学術)	-	-	-	平成21年度	同上	平成30年度より学生募集停止
大学院全体	5	188	-	410	-	-	-	-	-	-	

- (注) ・本調査の対象となっている大学等の設置者が既に設置している全ての大学(大学院含む)、短期大学及び高等専門学校についてそれぞれの学校ごとに、報告年度の5月1日現在の状況を記入してください。(専攻科及び別科を除く)。
 ・学部の学科または研究科の専攻等、「入学定員を定めている組織」ごとに全ての組織を記入してください。
 ※「入学定員を定めている組織」ごとには、課程認定等によりコース・専攻に入学定員を定めている場合を含めます。履修上の区分としてコース・専攻を設けている場合は含めません。
 ・本年度AC対象となる学部等については、必ず下線を引いてください。
 ・「平均入学定員超過率」には、報告年度(令和2年度)から起算した修業年限に相当する期間の入学定員超過率の平均を記載してください。
 ・「備考」の欄については、学年進行中の入学定員の増減や学生募集停止など、収容定員に影響のある情報を記入してください。

5 教員組織の状況

<総合国際学研究所 世界言語社会専攻>

(1) ① 担当教員表

【認可時又は届出時】		【平成30年度】		【令和元年度】		【令和2年度】	
専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等
		担当授業科目名	担当授業科目名	担当授業科目名	担当授業科目名	担当授業科目名	担当授業科目名
専	教授	鈴木 玲子 <平成30年4月>	鈴木 玲子 <平成30年4月>	鈴木 玲子 <平成30年4月>	鈴木 玲子 <平成30年4月> 修士(文学)	鈴木 玲子 <平成30年4月> 修士(文学)	鈴木 玲子 <平成30年4月> 修士(文学)
		異分野交流研究1 アジア・アフリカ言語論1 アジア・アフリカ言語論2	異分野交流研究1 異分野交流研究2 アジア・アフリカ言語論1 アジア・アフリカ言語論2	アジア・アフリカ言語論1 アジア・アフリカ言語論2	アジア・アフリカ言語論1 アジア・アフリカ言語論2	アジア・アフリカ言語論1 アジア・アフリカ言語論2	アジア・アフリカ言語論1 アジア・アフリカ言語論2
専	准教授	金指 久美子 <平成30年4月>	金指 久美子 <平成30年4月>	金指 久美子 <平成30年4月>	金指 久美子 <平成30年4月> 修士(文学)	金指 久美子 <平成30年4月> 修士(文学)	金指 久美子 <平成30年4月> 修士(文学)
		ヨーロッパ・アメリカ言語論1 ヨーロッパ・アメリカ言語論2	異分野交流研究1 異分野交流研究2 ヨーロッパ・アメリカ言語論1 ヨーロッパ・アメリカ言語論2	ヨーロッパ・アメリカ言語論1 ヨーロッパ・アメリカ言語論2	ヨーロッパ・アメリカ言語論1 ヨーロッパ・アメリカ言語論2	ヨーロッパ・アメリカ言語論1 ヨーロッパ・アメリカ言語論2	ヨーロッパ・アメリカ言語論1 ヨーロッパ・アメリカ言語論2
専	教授	望月 圭子 <平成30年4月>	望月 圭子 <平成30年4月>	望月 圭子 <平成30年4月>	望月 圭子 <平成30年4月> 博士(文学)	望月 圭子 <平成30年4月> 博士(文学)	望月 圭子 <平成30年4月> 博士(文学)
		言語学1 言語学2	言語学1 言語学2	言語学1 言語学2	言語学1 言語学2	言語学1 言語学2	言語学1 言語学2
専	教授	風間 伸次郎 <平成30年4月>	風間 伸次郎 <平成30年4月>	風間 伸次郎 <平成30年4月>	風間 伸次郎 <平成30年4月> 修士(文学)	風間 伸次郎 <平成30年4月> 修士(文学)	風間 伸次郎 <平成30年4月> 修士(文学)
		言語学1 言語学2	言語学1 言語学2	言語学1 言語学2	言語学1 言語学2	言語学1 言語学2	言語学2
専	准教授	箕浦 信勝 <平成30年4月>	箕浦 信勝 <平成30年4月>	箕浦 信勝 <平成30年4月>	箕浦 信勝 <平成30年4月> 修士(文学)	箕浦 信勝 <平成30年4月> 修士(文学)	箕浦 信勝 <平成30年4月> 修士(文学)
		言語学1 言語学2	言語学1 言語学2	言語学1 言語学2	言語学1 言語学2	言語学1 言語学2	言語学1 言語学2
専	教授	佐野 洋 <平成30年4月>	佐野 洋 <平成30年4月>	佐野 洋 <平成30年4月>	佐野 洋 <平成30年4月> 修士(工学)	佐野 洋 <平成30年4月> 修士(工学)	佐野 洋 <平成30年4月> 修士(工学)
		言語情報学1 言語情報学2	言語情報学1 言語情報学2	言語情報学1 言語情報学2	言語情報学1 言語情報学2	言語情報学1 言語情報学2	言語情報学1 言語情報学2
専	准教授	望月 源 <平成30年4月>	望月 源 <平成30年4月>	望月 源 <平成30年4月>	望月 源 <平成30年4月> 博士(情報科学)	望月 源 <平成30年4月> 博士(情報科学)	望月 源 <平成30年4月> 博士(情報科学)
		言語情報学1 言語情報学2	言語情報学1 言語情報学2	言語情報学1 言語情報学2	言語情報学1 言語情報学2	言語情報学1 言語情報学2	言語情報学1 言語情報学2
専	教授	浦田 和幸 <平成30年4月>	浦田 和幸 <平成30年4月>	浦田 和幸 <平成30年4月>	浦田 和幸 <平成30年4月> 修士(文学)	浦田 和幸 <平成30年4月> 修士(文学)	浦田 和幸 <平成30年4月> 修士(文学)
		英語学・英語教育学1 英語学・英語教育学2	英語学・英語教育学1 英語学・英語教育学2	英語学・英語教育学1 英語学・英語教育学2	英語学・英語教育学1 英語学・英語教育学2	英語学・英語教育学1 英語学・英語教育学2	英語学・英語教育学1 英語学・英語教育学2
専	教授	斎藤 弘子 <平成30年4月>	斎藤 弘子 <平成30年4月>	斎藤 弘子 <平成30年4月>	斎藤 弘子 <平成30年4月> 修士(文学)	斎藤 弘子 <平成30年4月> 修士(文学)	斎藤 弘子 <平成30年4月> 修士(文学)
		英語学・英語教育学1 英語学・英語教育学2	英語学・英語教育学1 英語学・英語教育学2	英語学・英語教育学1 英語学・英語教育学2	英語学・英語教育学1 英語学・英語教育学2	英語学・英語教育学1 英語学・英語教育学2	英語学・英語教育学1 英語学・英語教育学2
専	教授	根岸 雅史 <平成30年4月>	根岸 雅史 <平成30年4月>	根岸 雅史 <平成30年4月>	根岸 雅史 <平成30年4月> 博士(応用言語学)	根岸 雅史 <平成30年4月> 博士(応用言語学)	根岸 雅史 <平成30年4月> 博士(応用言語学)
		英語学・英語教育学1 英語学・英語教育学2	英語学・英語教育学1 英語学・英語教育学2	英語学・英語教育学1 英語学・英語教育学2	英語学・英語教育学1 英語学・英語教育学2	英語学・英語教育学1 英語学・英語教育学2	英語学・英語教育学1 英語学・英語教育学2

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等
		担当授業科目名
専	教授	吉富 朝子 <平成30年4月> 英語学・英語教育学1 英語学・英語教育学2
専	教授	投野 由紀夫 <平成30年4月> 英語学・英語教育学1 英語学・英語教育学2
専	教授	中川 裕 <平成30年4月> 音声学1 音声学2
専	教授	成田 節 <平成30年4月> ヨーロッパ・アメリカ言語論1 ヨーロッパ・アメリカ言語論2
専	教授	川口 裕司 <平成30年4月> ヨーロッパ・アメリカ言語論1 ヨーロッパ・アメリカ言語論2
専	教授	川上 茂信 <平成30年4月> ヨーロッパ・アメリカ言語論1 ヨーロッパ・アメリカ言語論2
専	教授	匹田 剛 <平成30年4月> ヨーロッパ・アメリカ言語論1 ヨーロッパ・アメリカ言語論2
専	准教授	藤縄 康弘 <平成30年4月> ヨーロッパ・アメリカ言語論1 ヨーロッパ・アメリカ言語論2

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等
		担当授業科目名
専	教授	吉富 朝子 <平成30年4月> 英語学・英語教育学1 英語学・英語教育学2
専	教授	投野 由紀夫 <平成30年4月> 英語学・英語教育学1 英語学・英語教育学2
専	教授	高島 英幸 <平成30年4月> 英語学・英語教育学1 英語学・英語教育学2
専	教授	中川 裕 <平成30年4月> 音声学1 音声学2
専	教授	益子 幸江 <平成30年4月> 音声学1 音声学2
専	教授	成田 節 <平成30年4月> ヨーロッパ・アメリカ言語論1 ヨーロッパ・アメリカ言語論2
専	教授	川口 裕司 <平成30年4月> ヨーロッパ・アメリカ言語論1 ヨーロッパ・アメリカ言語論2
専	教授	川上 茂信 <平成30年4月> ヨーロッパ・アメリカ言語論1 ヨーロッパ・アメリカ言語論2
専	教授	匹田 剛 <平成30年4月> ヨーロッパ・アメリカ言語論1 ヨーロッパ・アメリカ言語論2
専	教授	黒澤 直俊 <平成30年4月> ヨーロッパ・アメリカ言語論1 ヨーロッパ・アメリカ言語論2
専	教授	藤縄 康弘 <平成30年4月> ヨーロッパ・アメリカ言語論1 ヨーロッパ・アメリカ言語論2

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等
		担当授業科目名
専	教授	吉富 朝子 <平成30年4月> 博士(応用言語学) 英語学・英語教育学1 英語学・英語教育学2
専	教授	投野 由紀夫 <平成30年4月> Ph. D. 英語学・英語教育学1 英語学・英語教育学2
専	准教授	大谷 直輝 <平成31年4月> 博士(人間・環境学) 英語学・英語教育学1 英語学・英語教育学2
専	教授	中川 裕 <平成30年4月> Ph. D. 音声学1 音声学2
専	教授	益子 幸江 <平成30年4月> 修士(文学) 音声学1 音声学2
専	教授	成田 節 <平成30年4月> 修士(文学) ヨーロッパ・アメリカ言語論1 ヨーロッパ・アメリカ言語論2
専	教授	川口 裕司 <平成30年4月> 新制博士(言語学) ヨーロッパ・アメリカ言語論1 ヨーロッパ・アメリカ言語論2
専	教授	川上 茂信 <平成30年4月> 修士(文学) 真分野交流研究1 真分野交流研究2 ヨーロッパ・アメリカ言語論1 ヨーロッパ・アメリカ言語論2
専	教授	匹田 剛 <平成30年4月> 修士(文学) ヨーロッパ・アメリカ言語論1 ヨーロッパ・アメリカ言語論2
専	教授	黒澤 直俊 <平成30年4月> 修士(文学) ヨーロッパ・アメリカ言語論1 ヨーロッパ・アメリカ言語論2
専	教授	藤縄 康弘 <平成30年4月> 修士(文学) ヨーロッパ・アメリカ言語論1 ヨーロッパ・アメリカ言語論2

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等
		担当授業科目名
専	教授	吉富 朝子 <平成30年4月> 博士(応用言語学) 英語学・英語教育学1 英語学・英語教育学2
専	教授	投野 由紀夫 <平成30年4月> Ph. D. 英語学・英語教育学1 英語学・英語教育学2
専	准教授	大谷 直輝 <平成31年4月> 博士(人間・環境学) 英語学・英語教育学1 英語学・英語教育学2
専	教授	中川 裕 <平成30年4月> Ph. D. 音声学1
専	教授	益子 幸江 <平成30年4月> 修士(文学) 音声学1 音声学2
専	教授	成田 節 <平成30年4月> 修士(文学) ヨーロッパ・アメリカ言語論1 ヨーロッパ・アメリカ言語論2
専	教授	川口 裕司 <平成30年4月> 新制博士(言語学) ヨーロッパ・アメリカ言語論1 ヨーロッパ・アメリカ言語論2
専	教授	川上 茂信 <平成30年4月> 修士(文学) ヨーロッパ・アメリカ言語論1 ヨーロッパ・アメリカ言語論2
専	教授	匹田 剛 <平成30年4月> 修士(文学) 真分野交流研究1 真分野交流研究2 ヨーロッパ・アメリカ言語論1 ヨーロッパ・アメリカ言語論2
専	教授	黒澤 直俊 <平成30年4月> 修士(文学) ヨーロッパ・アメリカ言語論1 ヨーロッパ・アメリカ言語論2
専	教授	藤縄 康弘 <平成30年4月> 修士(文学) ヨーロッパ・アメリカ言語論1 ヨーロッパ・アメリカ言語論2

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等
		担当授業科目名
専	准教授	前田 和泉 <平成30年4月>
		ヨーロッパ・アメリカ文学・文化論1 ヨーロッパ・アメリカ文学・文化論2
専	教授	水野 善文 <平成30年4月>
		アジア・アフリカ文学・文化論1 アジア・アフリカ文学・文化論2
専	教授	八木 久美子 <平成30年4月>
		アジア・アフリカ文学・文化論1 アジア・アフリカ文学・文化論2
専	教授	青山 亨 <平成30年4月>
		アジア・アフリカ文学・文化論1 アジア・アフリカ文学・文化論2
専	教授	栗屋 利江 <平成30年4月>
		アジア・アフリカ文学・文化論1 アジア・アフリカ文学・文化論2
専	教授	林 佳世子 <平成30年4月>
		アジア・アフリカ文学・文化論1 アジア・アフリカ文学・文化論2
専	教授	土佐 桂子 <平成30年4月>
		アジア・アフリカ・オセアニア地域研究1 アジア・アフリカ・オセアニア地域研究2

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等
		担当授業科目名
専	准教授	前田 和泉 <平成30年4月>
		ヨーロッパ・アメリカ文学・文化論1 ヨーロッパ・アメリカ文学・文化論2
専	准教授	林 和宏 <平成30年4月>
		ヨーロッパ・アメリカ文学・文化論1 ヨーロッパ・アメリカ文学・文化論2
専	准教授	荒原 邦博 <平成30年4月>
		ヨーロッパ・アメリカ文学・文化論1 ヨーロッパ・アメリカ文学・文化論2
専	教授	水野 善文 <平成30年4月>
		アジア・アフリカ文学・文化論1 アジア・アフリカ文学・文化論2
専	教授	八木 久美子 <平成30年4月>
		アジア・アフリカ文学・文化論1 アジア・アフリカ文学・文化論2
専	教授	青山 亨 <平成30年4月>
		アジア・アフリカ文学・文化論1 アジア・アフリカ文学・文化論2
専	教授	栗屋 利江 <平成30年4月>
		アジア・アフリカ文学・文化論1 アジア・アフリカ文学・文化論2
専	教授	林 佳世子 <平成30年4月>
		アジア・アフリカ文学・文化論1 アジア・アフリカ文学・文化論2
専	教授	土佐 桂子 <平成30年4月>
		アジア・アフリカ文学・文化論1 アジア・アフリカ文学・文化論2
専	教授	川島 都夫 <平成30年4月>
		アジア・アフリカ文学・文化論1 アジア・アフリカ文学・文化論2
専	教授	岡田 和行 <平成30年4月>
		アジア・アフリカ文学・文化論1 アジア・アフリカ文学・文化論2
専	教授	藤井 守男 <平成30年4月>
		アジア・アフリカ文学・文化論1 アジア・アフリカ文学・文化論2

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等
		担当授業科目名
専	教授	前田 和泉 <平成30年4月> 博士(文学)
		ヨーロッパ・アメリカ文学・文化論1 ヨーロッパ・アメリカ文学・文化論2
専	准教授	荒原 邦博 <平成30年4月> 博士(学術)
		ヨーロッパ・アメリカ文学・文化論1 ヨーロッパ・アメリカ文学・文化論2
専	教授	水野 善文 <平成30年4月> 修士(文学)
		アジア・アフリカ文学・文化論1 アジア・アフリカ文学・文化論2
専	教授	八木 久美子 <平成30年4月> Ph. D.
		アジア・アフリカ文学・文化論2
専	教授	青山 亨 <平成30年4月> Ph. D.
		アジア・アフリカ文学・文化論1 アジア・アフリカ文学・文化論2
専	教授	栗屋 利江 <平成30年4月> 修士(文学)
		アジア・アフリカ文学・文化論1 アジア・アフリカ文学・文化論2
専	教授	土佐 桂子 <平成30年4月> 博士(文学)
		アジア・アフリカ文学・文化論1 アジア・アフリカ文学・文化論2

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等
		担当授業科目名
専	教授	前田 和泉 <平成30年4月> 博士(文学)
		ヨーロッパ・アメリカ文学・文化論1 ヨーロッパ・アメリカ文学・文化論2
専	准教授	荒原 邦博 <平成30年4月> 博士(学術)
		ヨーロッパ・アメリカ文学・文化論1 ヨーロッパ・アメリカ文学・文化論2
専	教授	水野 善文 <平成30年4月> 修士(文学)
		アジア・アフリカ文学・文化論1 アジア・アフリカ文学・文化論2
専	教授	八木 久美子 <平成30年4月> Ph. D.
		アジア・アフリカ文学・文化論1 アジア・アフリカ文学・文化論2
専	教授	青山 亨 <平成30年4月> Ph. D.
		アジア・アフリカ文学・文化論1 アジア・アフリカ文学・文化論2
専	教授	栗屋 利江 <平成30年4月> 修士(文学)
		アジア・アフリカ文学・文化論1 アジア・アフリカ文学・文化論2
専	教授	土佐 桂子 <平成30年4月> 博士(文学)
		アジア・アフリカ文学・文化論1 アジア・アフリカ文学・文化論2

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等
		担当授業科目名
専	准教授	橋本 雄一 <平成30年4月>
		アジア・アフリカ文学・文化論1 アジア・アフリカ文学・文化論2
専	准教授	岡田 知子 <平成30年4月>
		アジア・アフリカ文学・文化論1 アジア・アフリカ文学・文化論2
専	准教授	丹羽 京子 <平成30年4月>
		アジア・アフリカ文学・文化論1 アジア・アフリカ文学・文化論2
専	准教授	佐々木 あや乃 <平成30年4月>
		アジア・アフリカ文学・文化論1 アジア・アフリカ文学・文化論2
専	教授	吉本 秀之 <平成30年4月>
		人間文化論1 人間文化論2
専	准教授	田島 充士 <平成30年4月>
		人間文化論1 人間文化論2
専	教授	真島 一郎 <平成30年4月>
		現代世界論1 現代世界論2
専	教授	岡田 昭人 <平成30年4月>
		現代世界論1 現代世界論2

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等
		担当授業科目名
専	准教授	橋本 雄一 <平成30年4月>
		アジア・アフリカ文学・文化論1 アジア・アフリカ文学・文化論2
専	准教授	岡田 知子 <平成30年4月>
		アジア・アフリカ文学・文化論1 アジア・アフリカ文学・文化論2
専	准教授	丹羽 京子 <平成30年4月>
		アジア・アフリカ文学・文化論1 アジア・アフリカ文学・文化論2
専	准教授	佐々木 あや乃 <平成30年4月>
		アジア・アフリカ文学・文化論2
専	准教授	野平 宗弘 <平成30年4月>
		アジア・アフリカ文学・文化論1 アジア・アフリカ文学・文化論2
専	教授	吉本 秀之 <平成30年4月>
		人間文化論1 人間文化論2
専	准教授	田島 充士 <平成30年4月>
		人間文化論1 人間文化論2
専	教授	真島 一郎 <平成30年4月>
		現代世界論1 現代世界論2
専	教授	岡田 昭人 <平成30年4月>
		現代世界論1 現代世界論2
専	教授	金 富子 <平成30年4月>
		現代世界論1 現代世界論2
専	教授	岩崎 穂 <平成30年4月>
		現代世界論1 現代世界論2

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等
		担当授業科目名
専	准教授	橋本 雄一 <平成30年4月> 修士(文学)
		アジア・アフリカ文学・文化論1 アジア・アフリカ文学・文化論2
専	准教授	岡田 知子 <平成30年4月> 修士(文化科学)
		アジア・アフリカ文学・文化論1 アジア・アフリカ文学・文化論2
専	准教授	丹羽 京子 <平成30年4月> Ph. D.
		アジア・アフリカ文学・文化論1 アジア・アフリカ文学・文化論2
専	准教授	佐々木 あや乃 <平成30年4月> Ph. D.
		アジア・アフリカ文学・文化論1 アジア・アフリカ文学・文化論2
専	准教授	野平 宗弘 <平成30年4月> 博士(学術)
		アジア・アフリカ文学・文化論1 アジア・アフリカ文学・文化論2
専	教授	吉本 秀之 <平成30年4月> 修士(理学)
		人間文化論1 人間文化論2
専	准教授	田島 充士 <平成30年4月> 博士(心理学)
		人間文化論1 人間文化論2
専	教授	真島 一郎 <平成30年4月> 修士(社会学)
		現代世界論1 現代世界論2
専	教授	岡田 昭人 <平成30年4月> 博士(哲学)
		現代世界論1 現代世界論2
専	教授	金 富子 <平成30年4月> 博士(学術)
		現代世界論1 現代世界論2
専	教授	岩崎 穂 <平成30年4月> 修士(政治学)
		現代世界論1 現代世界論2

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等
		担当授業科目名
専	准教授	橋本 雄一 <平成30年4月> 修士(文学)
		アジア・アフリカ文学・文化論1 アジア・アフリカ文学・文化論2
専	准教授	岡田 知子 <平成30年4月> 修士(文化科学)
		アジア・アフリカ文学・文化論1 アジア・アフリカ文学・文化論2
専	教授	丹羽 京子 <平成30年4月> Ph. D.
		アジア・アフリカ文学・文化論1 アジア・アフリカ文学・文化論2
専	教授	佐々木 あや乃 <平成30年4月> Ph. D.
		アジア・アフリカ文学・文化論1 アジア・アフリカ文学・文化論2
専	准教授	野平 宗弘 <平成30年4月> 博士(学術)
		アジア・アフリカ文学・文化論1 アジア・アフリカ文学・文化論2
専	准教授	野平 宗弘 <令和2年4月> 博士(学術)
		アジア・アフリカ文学・文化論1 アジア・アフリカ文学・文化論2
専	教授	吉本 秀之 <平成30年4月> 修士(理学)
		人間文化論1 人間文化論2
専	准教授	田島 充士 <平成30年4月> 博士(心理学)
		人間文化論1 人間文化論2
専	教授	真島 一郎 <平成30年4月> 修士(社会学)
		現代世界論1 現代世界論2
専	教授	岡田 昭人 <平成30年4月> 博士(哲学)
		現代世界論1 現代世界論2
専	教授	金 富子 <平成30年4月> 博士(学術)
		現代世界論1 現代世界論2
専	教授	岩崎 穂 <平成30年4月> 修士(政治学)
		現代世界論1 現代世界論2

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) ＜就任(予定)年月＞ 保有学位等
		担当授業科目名
専	准教授	加藤 美帆 ＜平成30年4月＞ 現代世界論1 現代世界論2
専	教授	千葉 敏之 ＜平成30年4月＞ ヨーロッパ・アメリカ地域研究1 ヨーロッパ・アメリカ地域研究2
専	教授	篠原 琢 ＜平成30年4月＞ ヨーロッパ・アメリカ地域研究1 ヨーロッパ・アメリカ地域研究2
専	教授	鈴木 義一 ＜平成30年4月＞ ヨーロッパ・アメリカ地域研究1 ヨーロッパ・アメリカ地域研究2
専	准教授	伊東 剛史 ＜平成30年4月＞ ヨーロッパ・アメリカ地域研究1 ヨーロッパ・アメリカ地域研究2
専	准教授	芹生 尚子 ＜平成30年4月＞ ヨーロッパ・アメリカ地域研究1 ヨーロッパ・アメリカ地域研究2
専	准教授	久米 順子 ＜平成30年4月＞ ヨーロッパ・アメリカ地域研究1 ヨーロッパ・アメリカ地域研究2

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) ＜就任(予定)年月＞ 保有学位等
		担当授業科目名
専	教授	今福 龍太 ＜平成30年4月＞ 現代世界論1 現代世界論2
専	准教授	加藤 美帆 ＜平成30年4月＞ 現代世界論1 現代世界論2
専	教授	千葉 敏之 ＜平成30年4月＞ ヨーロッパ・アメリカ地域研究1 ヨーロッパ・アメリカ地域研究2
専	教授	篠原 琢 ＜平成30年4月＞ ヨーロッパ・アメリカ地域研究1 ヨーロッパ・アメリカ地域研究2
専	教授	鈴木 義一 ＜平成30年4月＞ ヨーロッパ・アメリカ地域研究1 ヨーロッパ・アメリカ地域研究2
専	教授	高橋 均 ＜平成30年4月＞ ヨーロッパ・アメリカ地域研究1 ヨーロッパ・アメリカ地域研究2
専	教授	鈴木 茂 ＜平成30年4月＞ ヨーロッパ・アメリカ地域研究1 ヨーロッパ・アメリカ地域研究2
専	准教授	伊東 剛史 ＜平成30年4月＞ ヨーロッパ・アメリカ地域研究1 ヨーロッパ・アメリカ地域研究2
専	准教授	芹生 尚子 ＜平成30年4月＞ ヨーロッパ・アメリカ地域研究1 ヨーロッパ・アメリカ地域研究2
専	准教授	久米 順子 ＜平成30年4月＞ ヨーロッパ・アメリカ地域研究1 ヨーロッパ・アメリカ地域研究2
専	准教授	小田原 琳 ＜平成30年4月＞ ヨーロッパ・アメリカ地域研究1 ヨーロッパ・アメリカ地域研究2

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) ＜就任(予定)年月＞ 保有学位等
		担当授業科目名
専	教授	今福 龍太 ＜平成30年4月＞ M.A.(文学) 現代世界論1 現代世界論2
専	准教授	加藤 美帆 ＜平成30年4月＞ 博士(教育学) 現代世界論1 現代世界論2
専	教授	大川 正彦 ＜平成31年4月＞ 修士(政治学) 現代世界論1 現代世界論2
専	教授	千葉 敏之 ＜平成30年4月＞ 博士(文学) ヨーロッパ・アメリカ地域研究1
専	教授	篠原 琢 ＜平成30年4月＞ 修士(文学) ヨーロッパ・アメリカ地域研究1
専	教授	鈴木 義一 ＜平成30年4月＞ 学士 ヨーロッパ・アメリカ地域研究1 ヨーロッパ・アメリカ地域研究2
専	教授	高橋 均 ＜平成30年4月＞ 修士(学術) ヨーロッパ・アメリカ地域研究1 ヨーロッパ・アメリカ地域研究2
専	准教授	伊東 剛史 ＜平成30年4月＞
専	准教授	芹生 尚子 ＜平成30年4月＞ 博士(歴史・文明学) ヨーロッパ・アメリカ地域研究1 ヨーロッパ・アメリカ地域研究2
専	准教授	久米 順子 ＜平成30年4月＞ 博士(文学) ヨーロッパ・アメリカ地域研究1 ヨーロッパ・アメリカ地域研究2
専	准教授	小田原 琳 ＜平成30年4月＞ 博士(学術) ヨーロッパ・アメリカ地域研究1 ヨーロッパ・アメリカ地域研究2

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) ＜就任(予定)年月＞ 保有学位等
		担当授業科目名
専	准教授	加藤 美帆 ＜平成30年4月＞ 博士(教育学) 現代世界論1 現代世界論2
専	教授	大川 正彦 ＜平成31年4月＞ 修士(政治学) 現代世界論1 現代世界論2
専	教授	千葉 敏之 ＜平成30年4月＞ 博士(文学) ヨーロッパ・アメリカ地域研究1 ヨーロッパ・アメリカ地域研究2
専	教授	篠原 琢 ＜平成30年4月＞ 修士(文学) ヨーロッパ・アメリカ地域研究1 ヨーロッパ・アメリカ地域研究2
専	教授	鈴木 義一 ＜平成30年4月＞ 学士 ヨーロッパ・アメリカ地域研究1 ヨーロッパ・アメリカ地域研究2
専	教授	高橋 均 ＜平成30年4月＞ 修士(学術) ヨーロッパ・アメリカ地域研究1 ヨーロッパ・アメリカ地域研究2
専	准教授	伊東 剛史 ＜令和2年4月＞ Ph.D.(史学) ヨーロッパ・アメリカ地域研究1 ヨーロッパ・アメリカ地域研究2
専	准教授	芹生 尚子 ＜平成30年4月＞ 博士(歴史・文明学) ヨーロッパ・アメリカ地域研究1 ヨーロッパ・アメリカ地域研究2
専	准教授	久米 順子 ＜平成30年4月＞ 博士(文学) ヨーロッパ・アメリカ地域研究2

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等
		担当授業科目名
専	准教授	坂井 真紀子 <平成30年4月>
		アジア・アフリカ・オセアニア地域研究1 アジア・アフリカ・オセアニア地域研究2
専	准教授	左右田 直規 <平成30年4月>
		アジア・アフリカ・オセアニア地域研究1 アジア・アフリカ・オセアニア地域研究2
専	准教授	菊池 陽子 <平成30年4月>
		アジア・アフリカ・オセアニア地域研究1 アジア・アフリカ・オセアニア地域研究2
専	教授	松隈 潤 <平成30年4月>
		国際関係論1 国際関係論2
専	教授	若松 邦弘 <平成30年4月>
		国際関係論1 国際関係論2
専	准教授	田島 陽一 <平成30年4月>
		国際関係論1 国際関係論2
専	准教授	鈴木 美弥子 <平成30年4月>
		国際関係論1 国際関係論2

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等
		担当授業科目名
専	准教授	坂井 真紀子 <平成30年4月>
		アジア・アフリカ・オセアニア地域研究1 アジア・アフリカ・オセアニア地域研究2
専	准教授	左右田 直規 <平成30年4月>
		アジア・アフリカ・オセアニア地域研究1 アジア・アフリカ・オセアニア地域研究2
専	准教授	菊池 陽子 <平成30年4月>
		アジア・アフリカ・オセアニア地域研究1 アジア・アフリカ・オセアニア地域研究2
専	准教授	青木 雅浩 <平成30年4月>
		アジア・アフリカ・オセアニア地域研究1 アジア・アフリカ・オセアニア地域研究2
専	准教授	倉田 明子 <平成30年4月>
		アジア・アフリカ・オセアニア地域研究1 アジア・アフリカ・オセアニア地域研究2
専	教授	松隈 潤 <平成30年4月>
		国際関係論1 国際関係論2
専	教授	若松 邦弘 <平成30年4月>
		国際関係論1 国際関係論2
専	教授	渡邊 啓貴 <平成30年4月>
		国際関係論1 国際関係論2
専	教授	田島 陽一 <平成30年4月>
		国際関係論1 国際関係論2
専	准教授	鈴木 美弥子 <平成30年4月>
		国際関係論1 国際関係論2

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等
		担当授業科目名
専	准教授	坂井 真紀子 <平成30年4月> 博士(社会学)
		アジア・アフリカ・オセアニア地域研究2
専	教授	左右田 直規 <平成30年4月> 博士(地域研究)
		アジア・アフリカ・オセアニア地域研究1 アジア・アフリカ・オセアニア地域研究2
専	准教授	菊池 陽子 <平成30年4月> 修士(文学)
		アジア・アフリカ・オセアニア地域研究1 アジア・アフリカ・オセアニア地域研究2
専	准教授	青木 雅浩 <平成30年4月> 博士(文学)
		アジア・アフリカ・オセアニア地域研究1 アジア・アフリカ・オセアニア地域研究2
専	准教授	倉田 明子 <平成30年4月> 博士(学術)
		アジア・アフリカ・オセアニア地域研究1 アジア・アフリカ・オセアニア地域研究2
専	准教授	小笠原 欣幸 <平成31年4月> 博士(社会学)
		アジア・アフリカ・オセアニア地域研究1 アジア・アフリカ・オセアニア地域研究2
専	教授	松隈 潤 <平成30年4月> 修士(学術)
		国際関係論1 国際関係論2
専	教授	若松 邦弘 <平成30年4月> Ph. D.
		国際関係論1 国際関係論2
専	教授	田島 陽一 <平成30年4月> 博士(国際関係学)
		国際関係論1 国際関係論2
専	准教授	鈴木 美弥子 <平成30年4月>
		国際関係論1 国際関係論2

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等
		担当授業科目名
専	准教授	坂井 真紀子 <平成30年4月> 博士(社会学)
		アジア・アフリカ・オセアニア地域研究1 アジア・アフリカ・オセアニア地域研究2
専	教授	左右田 直規 <平成30年4月> 博士(地域研究)
		アジア・アフリカ・オセアニア地域研究1 アジア・アフリカ・オセアニア地域研究2
専	准教授	菊池 陽子 <平成30年4月> 修士(文学)
		アジア・アフリカ・オセアニア地域研究1 アジア・アフリカ・オセアニア地域研究2
専	准教授	青木 雅浩 <平成30年4月> 博士(文学)
		アジア・アフリカ・オセアニア地域研究1 アジア・アフリカ・オセアニア地域研究2
専	准教授	倉田 明子 <平成30年4月> 博士(学術)
		アジア・アフリカ・オセアニア地域研究1 アジア・アフリカ・オセアニア地域研究2
専	教授	小笠原 欣幸 <平成31年4月> 博士(社会学)
		アジア・アフリカ・オセアニア地域研究1 アジア・アフリカ・オセアニア地域研究2
専	准教授	大石 高興 <令和2年4月> 博士(地域研究)
		アジア・アフリカ・オセアニア地域研究1 アジア・アフリカ・オセアニア地域研究2
専	教授	松隈 潤 <平成30年4月> 修士(学術)
		国際関係論1 国際関係論2
専	教授	若松 邦弘 <平成30年4月> Ph. D.
		国際関係論1 国際関係論2
専	教授	鈴木 美弥子 <平成30年4月> 修士(法学)
		国際関係論1 国際関係論2

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等
		担当授業科目名
専	准教授	蒲生 慶一 <平成30年4月>
		国際関係論 1 国際関係論 2
専	教授	伊勢崎 賢治 <平成30年4月>
		Applied Peacebuilding 2 Applied Peacebuilding 1
専	教授	松永 泰行 <平成30年4月>
		Conflict and Social Change 2 Conflict and Social Change 1
専	教授	篠田 英朗 <平成30年4月>
		Foundation for Peacebuilding 2 Foundation for Peacebuilding 1
専	教授	渡辺 己 <平成30年4月>
		アジア・アフリカフィールド言語学 1 アジア・アフリカフィールド言語学 2
専	教授	星 泉 <平成30年4月>
		アジア・アフリカフィールド言語学 1 アジア・アフリカフィールド言語学 2
専	教授	呉人 徳司 <平成30年4月>
		アジア・アフリカフィールド言語学 1 アジア・アフリカフィールド言語学 2
専	教授	中山 俊秀 <平成30年4月>
		アジア・アフリカフィールド言語学 1 アジア・アフリカフィールド言語学 2
専	教授	澤田 英夫 <平成30年4月>
		アジア・アフリカフィールド言語学 1 アジア・アフリカフィールド言語学 2

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等
		担当授業科目名
専	准教授	蒲生 慶一 <平成30年4月>
		国際関係論 1 国際関係論 2
専	教授	伊勢崎 賢治 <平成30年4月>
		Applied Peacebuilding 2 Applied Peacebuilding 1
専	教授	松永 泰行 <平成30年4月>
		Conflict and Social Change 2 Conflict and Social Change 1
専	教授	篠田 英朗 <平成30年4月>
		Foundation for Peacebuilding 2 Foundation for Peacebuilding 1
専	教授	渡辺 己 <平成30年4月>
		アジア・アフリカフィールド言語学 1 アジア・アフリカフィールド言語学 2
専	教授	星 泉 <平成30年4月>
		アジア・アフリカフィールド言語学 1 アジア・アフリカフィールド言語学 2
専	教授	呉人 徳司 <平成30年4月>
		アジア・アフリカフィールド言語学 1 アジア・アフリカフィールド言語学 2
専	教授	中山 俊秀 <平成30年4月>
		アジア・アフリカフィールド言語学 1 アジア・アフリカフィールド言語学 2
専	教授	澤田 英夫 <平成30年4月>
		アジア・アフリカフィールド言語学 1 アジア・アフリカフィールド言語学 2
専	教授	峰岸 真尋 <平成30年4月>
		アジア・アフリカフィールド言語学 1 アジア・アフリカフィールド言語学 2

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等
		担当授業科目名
専	教授	伊勢崎 賢治 <平成30年4月> 修士(工学)
		Applied Peacebuilding 2 Applied Peacebuilding 1
専	教授	松永 泰行 <平成30年4月> Ph. D.
		Conflict and Social Change 2 Conflict and Social Change 1
専	教授	篠田 英朗 <平成30年4月> Ph. D.
		Foundation for Peacebuilding 2 Foundation for Peacebuilding 1
専	教授	渡辺 己 <平成30年4月> 博士(文学)
		アジア・アフリカフィールド言語学 1 アジア・アフリカフィールド言語学 2
専	教授	星 泉 <平成30年4月> 博士(文学)
		アジア・アフリカフィールド言語学 1 アジア・アフリカフィールド言語学 2
専	教授	呉人 徳司 <平成30年4月> 博士(文学)
		アジア・アフリカフィールド言語学 1 アジア・アフリカフィールド言語学 2
専	教授	中山 俊秀 <平成30年4月> 博士(言語学)
		アジア・アフリカフィールド言語学 1 アジア・アフリカフィールド言語学 2
専	教授	澤田 英夫 <平成30年4月> 修士(文学)
		アジア・アフリカフィールド言語学 1 アジア・アフリカフィールド言語学 2
専	教授	峰岸 真尋 <平成30年4月> 修士(文学)
		アジア・アフリカフィールド言語学 1 アジア・アフリカフィールド言語学 2

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等
		担当授業科目名
専	准教授	出町 一恵 <令和2年4月> 博士(経済学)
		国際関係論 1 国際関係論 2
専	准教授	中山 裕美 <令和2年4月> 博士(法学)
		国際関係論 1 国際関係論 2
専	教授	伊勢崎 賢治 <平成30年4月> 修士(工学)
		Applied Peacebuilding 2 Applied Peacebuilding 1
専	教授	松永 泰行 <平成30年4月> Ph. D.
		Conflict and Social Change 2 Conflict and Social Change 1
専	教授	篠田 英朗 <平成30年4月> Ph. D.
		Foundation for Peacebuilding 2
専	教授	渡辺 己 <平成30年4月> 博士(文学)
		アジア・アフリカフィールド言語学 1 アジア・アフリカフィールド言語学 2
専	教授	星 泉 <平成30年4月> 博士(文学)
		アジア・アフリカフィールド言語学 1 アジア・アフリカフィールド言語学 2
専	教授	呉人 徳司 <平成30年4月> 博士(文学)
		アジア・アフリカフィールド言語学 1 アジア・アフリカフィールド言語学 2
専	教授	中山 俊秀 <平成30年4月> 博士(言語学)
		アジア・アフリカフィールド言語学 1 アジア・アフリカフィールド言語学 2
専	教授	澤田 英夫 <平成30年4月> 修士(文学)
		アジア・アフリカフィールド言語学 1 アジア・アフリカフィールド言語学 2
専	教授	峰岸 真尋 <平成30年4月> 修士(文学)
		アジア・アフリカフィールド言語学 1 アジア・アフリカフィールド言語学 2

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等	専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等	専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等	専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等		
		担当授業科目名			担当授業科目名			担当授業科目名			担当授業科目名		
専	准教授	苅谷 康太 <平成30年4月>	専	准教授	苅谷 康太 <平成30年4月>	専	准教授	苅谷 康太 <平成30年4月> 博士(学術)	専	准教授	苅谷 康太 <平成30年4月> 博士(学術)		
		アジア・アフリカフィールド地域研究 1 アジア・アフリカフィールド地域研究 2			アジア・アフリカフィールド地域研究 1 アジア・アフリカフィールド地域研究 2			アジア・アフリカフィールド地域研究 1 アジア・アフリカフィールド地域研究 2			アジア・アフリカフィールド地域研究 1 アジア・アフリカフィールド地域研究 2		
専	准教授	野田 仁 <平成30年4月>	専	准教授	野田 仁 <平成30年4月>	専	准教授	野田 仁 <平成30年4月> 博士(文学)	専	准教授	野田 仁 <平成30年4月> 博士(文学)		
		アジア・アフリカフィールド地域研究 1 アジア・アフリカフィールド地域研究 2			アジア・アフリカフィールド地域研究 1 アジア・アフリカフィールド地域研究 2			アジア・アフリカフィールド地域研究 1 アジア・アフリカフィールド地域研究 2			アジア・アフリカフィールド地域研究 1 アジア・アフリカフィールド地域研究 2		
兼任	教授	柴田 勝二 <平成30年4月>	兼任	教授	柴田 勝二 <平成30年4月>	兼任	教授	柴田 勝二 <平成30年4月> 博士(文学)	兼任	教授	柴田 勝二 <平成30年4月> 博士(文学)		
		異分野交流研究 2			異分野交流研究 2			異分野交流研究 2			異分野交流研究 2		
					間 草 <平成30年4月>			間 草 <平成30年4月> 修士			間 草 <平成30年4月> 修士		
			兼任	教授	Conflict and Social Change 2 Conflict and Social Change 1		兼任	教授	Conflict and Social Change 2 Conflict and Social Change 1		兼任	教授	Conflict and Social Change 2 Conflict and Social Change 1

- (注) ・ 報告年度の5月1日現在の情報を記入してください。(過年度については、各年度末時点の情報として記入してください。)
- ・ 認可申請書又は設置届出書の様式第3号(その2の1)に準じて作成してください。
 - ・ 「認可時又は届出時」には 設置認可時又は届出時の教員全て(兼任、兼任教員を含む。)を黒字で記入してください。
- その上で、**認可時又は届出時から変更となっている箇所は赤字としてください。**
- ・ 各欄の作成方法は「大学の設置等に係る提出書類作成の手引き」の「教員名簿」を確認してください。
 - ・ 年齢は、**それぞれの年度の5月1日時点の満年齢**を記入してください。
 - ・ 専任(専門職大学等は専、実専、実(研)、実(実)、実(実)、兼任、兼任の順に記入してください。
 - ・ 不要な年度(平成30年度開設であれば平成29年度)の表は適宜削除し、詰めてください。

(1) ②担当教員表に関する変更内容

【平成30年度】

- ・教育内容充実のため、下記の教員を追加。
 - 鈴木玲子教授（異分野交流研究2）
 - 高島英幸教授（英語学・英語教育学1・2）
 - 益子幸江教授（音声学1・2）
 - 黒澤直俊教授（ヨーロッパ・アメリカ言語論1・2）
 - 加藤雄二教授（異分野交流研究2）
 - 岩崎務教授（ヨーロッパ・アメリカ文学・文化論1・2）
 - 林和宏准教授（ヨーロッパ・アメリカ文学・文化論1・2）
 - 川島郁夫教授（アジア・アフリカ文学・文化論1・2）
 - 岡田和行教授（アジア・アフリカ文学・文化論1・2）
 - 藤井守男教授（アジア・アフリカ文学・文化論1・2）
 - 金富子教授（現代世界論1・2）
 - 岩崎稔教授（現代世界論1・2）
 - 今福龍太教授（現代世界論1・2）
 - 鈴木茂教授（ヨーロッパ・アメリカ地域研究1・2）
 - 丹羽泉教授（アジア・アフリカ・オセアニア地域研究1・2）
 - 今井昭夫教授（アジア・アフリカ・オセアニア地域研究1・2）
 - 小川英文教授（アジア・アフリカ・オセアニア地域研究1・2）
 - 藤井毅教授（アジア・アフリカ・オセアニア地域研究1・2）
 - 渡邊啓貴教授（国際関係論1・2）
 - 峰岸真琴教授（アジア・アフリカフィールド言語学1・2）
 - 深澤秀夫教授（アジア・アフリカフィールド人類学1・2）
 - 小田淳一教授（アジア・アフリカフィールド地域研究1・2）
 - 高島淳教授（アジア・アフリカフィールド地域研究1・2）
 - 間諺教授（兼担）（Conflict and Social Change 2・1）
- ・指導体制強化のため、下記の教員を追加。
 - 金指久美子准教授（異分野交流研究1・2）
 - 秋廣尚恵准教授（ヨーロッパ・アメリカ言語論1・2）
 - 長屋尚典准教授（アジア・アフリカ言語論1・2）
 - 野平宗弘准教授（アジア・アフリカ文学・文化論1・2）
 - 荒原邦博准教授（ヨーロッパ・アメリカ文学・文化論1・2）
 - 小田原琳准教授（ヨーロッパ・アメリカ地域研究1・2）
 - 青木雅浩准教授（アジア・アフリカ・オセアニア地域研究1・2）
 - 倉田明子准教授（アジア・アフリカ・オセアニア地域研究1・2）
 - 荒川慎太郎准教授（アジア・アフリカフィールド言語学1・2）
 - 伊藤智ゆき准教授（アジア・アフリカフィールド言語学1・2）
 - 塩原朝子准教授（アジア・アフリカフィールド言語学1・2）
 - 品川大輔准教授（アジア・アフリカフィールド言語学1・2）
 - 山越康裕准教授（アジア・アフリカフィールド言語学1・2）
 - 太田信宏准教授（アジア・アフリカフィールド地域研究1・2）
- ・科目内容を考慮し担当科目を変更。
 - 土佐柱子教授（変更前：アジア・アフリカ・オセアニア地域研究1・2 変更後：アジア・アフリカ文学・文化論1・2）
- ・専任教員昇任のため、専任教員等の配置の変更。
 - 藤縄康弘教授昇任（ヨーロッパ・アメリカ言語論1・2）
 - 田島陽一教授昇任（国際関係論1・2）
 - 高松洋一教授昇任（アジア・アフリカフィールド地域研究1・2）
 - 外川昌彦教授昇任（アジア・アフリカフィールド地域研究1・2）
- ・担当予定教員の死去のため、専任教員等の配置の変更。
 - ラトクリフ・ロバート教授（アジア・アフリカ言語論1・2）
- ・専任教員特別研修のため、専任教員等の配置の変更。
 - 五十嵐孔一教授（アジア・アフリカ言語論1）

【令和元年度】

- ・科目内容を鑑みた担当者の変更。
鈴木玲子教授から川上茂信教授（異分野交流研究 1・2）
金指久美子准教授から五十嵐孔一教授（異分野交流研究 1・2）
飯塚雅人教授から床呂郁哉教授（アジア・アフリカフィールド地域研究 1・2）
- ・指導体制強化のため、下記の教員を追加。
内藤稔准教授（言語学 1・2）
大谷直輝准教授（英語学・英語教育学 1・2）
大川正彦教授（現代世界論 1・2）
巽由樹子准教授（ヨーロッパ・アメリカ地域研究 1・2）
福岡千穂准教授（ヨーロッパ・アメリカ地域研究 1・2）
小笠原欣幸准教授（アジア・アフリカ・オセアニア地域研究 1・2）
児倉徳和准教授（アジア・アフリカフィールド言語学 1・2）
- ・専任教員昇任のため、専任教員等の配置の変更。
前田和泉教授昇任（ヨーロッパ・アメリカ文学・文化論 1・2）
左右田直規教授昇任（アジア・アフリカ・オセアニア地域研究 1・2）
- ・専任教員退職のため、専任教員等の配置の変更。
高島英幸教授（英語学・英語教育学 1・2）
長屋尚典准教授（アジア・アフリカ言語論 1・2）
林和宏准教授（ヨーロッパ・アメリカ文学・文化論 1・2）
岡田和行教授（アジア・アフリカ文学・文化論 1・2）
川島郁夫教授（アジア・アフリカ文学・文化論 1・2）
藤井守男教授（アジア・アフリカ文学・文化論 1・2）
鈴木茂教授（ヨーロッパ・アメリカ地域研究 1・2）
渡邊啓貴教授（国際関係論 1・2）
- ・担当教員学長就任のため、専任教員等の配置の変更。
林佳世子教授（アジア・アフリカ文学・文化論 1・2）
- ・2018年度専任教員特別研修のため未開講であった科目の開講のため、専任教員等の配置の変更。
五十嵐孔一准教授（アジア・アフリカ言語論 1）
佐々木あや乃准教授（アジア・アフリカ文学・文化論 1）
- ・専任教員特別研修のため、専任教員等の配置の変更。
八木久美子教授（アジア・アフリカ文学・文化論 1）
伊東剛史准教授（ヨーロッパ・アメリカ地域研究 1・2）
千葉敏之教授（ヨーロッパ・アメリカ地域研究 2）
篠原琢教授（ヨーロッパ・アメリカ地域研究 2）
坂井真紀子准教授（アジア・アフリカ・オセアニア地域研究 1）
- ・授業担当見直しのため、専任教員等の配置の変更。
蒲生慶一准教授（国際関係論 1・2）

【令和2年度】

- ・科目内容を鑑みた担当者の変更。
川上茂信教授から匹田剛教授に変更（異分野交流研究 1・2）
五十嵐孔一教授から萬宮（小牧）健策准教授に変更（異分野交流研究 1・2）
太田信宏准教授から吉田ゆかり准教授（アジア・アフリカフィールドワーク 1・2）
- ・指導体制強化のため、下記の教員を追加。
テップ・ティン・フー・スミット准教授（アジア・アフリカ文学・文化論 1）
大石高典准教授（アジア・アフリカ・オセアニア地域研究 1・2）
出町一恵准教授（国際関係論 1・2）
中山裕美准教授（国際関係論 1・2）
吉田ゆかり准教授（アジア・アフリカフィールド人類学 1・2、アジア・アフリカフィールド地域研究 1・2、アジア・アフリカフィールドワーク 1・2）
- ・専任教員昇任のため、専任教員等の配置の変更。
金指久美子教授昇任（ヨーロッパ・アメリカ言語論 1・2）
佐々木あや乃教授（アジア・アフリカ文学・文化論 1・2）
丹羽京子教授（アジア・アフリカ文学・文化論 1・2）
小笠原欣幸教授昇任（アジア・アフリカ・オセアニア地域研究 1・2）
鈴木美弥子教授（国際関係論 1・2）
塩原朝子教授（アジア・アフリカフィールド言語学 1・2）
- ・専任教員退職のため、専任教員等の配置の変更。
岩崎務教授（ヨーロッパ・アメリカ文学・文化論 1・2）
今福龍太教授（現代世界論 1・2）
深澤秀夫教授（アジア・アフリカフィールド人類学 1・2）
高島洋教授（アジア・アフリカフィールド地域研究 1・2）
- ・2019年度専任教員特別研修のため未開講であった科目の開講のため、専任教員等の配置の変更。
八木久美子教授（アジア・アフリカ文学・文化論 1）
千葉敏之教授（ヨーロッパ・アメリカ地域研究 2）
篠原琢教授（ヨーロッパ・アメリカ地域研究 2）
吉田ゆかり教授（アジア・アフリカ・オセアニア地域研究 2）
伊東剛史准教授（ヨーロッパ・アメリカ地域研究 1・2）
坂井真紀子准教授（アジア・アフリカ・オセアニア地域研究 1）
- ・専任教員特別研修のため、専任教員等の配置の変更。
風間伸次郎教授（言語学 1）
中川裕教授（音声学 2）
久米順子准教授（ヨーロッパ・アメリカ地域研究 1）
- ・専任教員特別研修のため、未開講。
篠田英朗教授（Foundation for Peacebuilding 1）
- ・授業担当見直しのため、専任教員等の配置の変更。
内藤稔准教授（言語学 1・2）
田島陽一教授（国際関係論 1・2）

- (注) ・ 変更内容を箇条書きで記入してください。変更がない年度は「特になし。」と記入してください。
- ・ **認可で設置された学部等の専任教員を変更する場合は**、当該専任教員が授業を開始する前に必ず「専任教員採用等設置計画変更書」を提出し、大学設置・学校法人審議会による教員資格審査（AC教員審査）を受けてください。**AC教員審査を受けずに専任教員として授業等を担当することは出来ません。**
 - ・ 「専任教員採用等変更書（AC）」を提出し「可」の教員判定を受けている場合は「〇年〇月教員審査済」と記入してください。
- なお、設置認可審査時に教員審査省略となっている場合は、「教員審査省略」と記入してください。
- ・ 不要な年度（平成30年度開設であれば平成29年度）の表は適宜削除してください。

(2) 専任教員数等

(2) - ① 設置基準上の必要専任教員数

完成年度時における 設置基準上の必要研究 指導教員数	うち、完成年度時に おける設置基準上の 必要教授数	完成年度時における 設置基準上の必要研究 指導補助教員数
8	6	0
名	名	名

(注) ・ 大学院に専攻ごとに置くものとする教員の数について定める件（平成十一年九月十四日文部省告示第七十五号）により算出される教員数を記入してください。

(2) - ② 専任教員等数【大学院】

設置時の計画						現在（報告時）の状況					
教授	准教授	講師	助教	計 (A)	助手 (A')	教授	准教授	講師	助教	計 (B)	助手 (B')
58	39	0	0	97	0	80	49	0	0	129	0
(82)	(48)	(0)	(0)	(130)	(0)						
研究指導教員 数	研究指導補助 教員数	講義のみ担当 の教員数	/			研究指導教員 数	研究指導補助 教員数	講義のみ担当 の教員数	/		
97	0	0				129	0	0			
(130)	(0)	(0)									
現在（報告時）の完成年度時の状況						現在（報告時）の完成年度時の計画					
教授	准教授	講師	助教	計 (C)	助手 (C')	教授	准教授	講師	助教	計 (D)	助手 (D')
80	49	0	0	129	0	80	49	0	0	129	0
[22]	[10]	[0]	[0]	[32]	[0]	[22]	[10]	[0]	[0]	[32]	[0]
研究指導教員 数	研究指導補助 教員数	講義のみ担当 の教員数	/			研究指導教員 数	研究指導補助 教員数	講義のみ担当 の教員数	/		
129	0	0				129	0	0			
[32]	[0]	[0]				[32]	[0]	[0]			

(注) ・ 「設置時の計画」には、設置時に予定されていた完成年度時の人数を記入するとともに、() 内に開設時の状況を記入してください。
 ・ 「現在（報告時）の状況」には、報告年度の5月1日の教員数（実人数）を記入してください。
 ・ 「現在（報告時）の完成年度時の状況」には、「現在（報告時）の状況」に記入した数字に、教員審査を要済みであり、完成年度までに就任する教員数を加えた数を記入するとともに、[] 内に設置時の計画との増減数を記入してください。（記入例：1名減の場合：△1）
 ・ 「現在（報告時）の完成年度時の計画」には、予定されている完成年度時の人数を記入するとともに、[] 内に設置時の計画との増減数を記入してください。（記入例：1名減の場合：△1）
 ・ 専門職大学院の場合は、「研究指導教員」を「研究者教員」と、「研究指導補助教員」を「実務家教員」と修正して記入してください。

(2) - ③ 年齢構成

年齢構成		
定年規定の定める 定年年齢（歳）	報告時（上記 (B)）の教員の うち、定年を延長 して採用している 教員数	完成年度時（上記 (C)）の教員う ち、定年を延長し て採用する教員数
63～65	0	1
歳	名	名

(注) ・ 「年齢構成」には、当該学部における教員の定年に関する規定に基づく定年年齢（特例等による定年年齢ではありません）、及び、報告年度の5月1日現在、定年に関する規定に基づく特例等により定年を超えて専任教員として採用されている教員数及び完成年度時に定年を超えて専任教員として採用する教員数を記入してください。
 ・ なお、職位等によって定年年齢が異なる場合には、職位ごとの定年年齢を「定年規定の定める定年年齢」に二段書きで記入し、「定年を延長している教員数」には合算した数を記入してください。

(2) - ④ 設置時の計画に対する教員充足率

$$\frac{\text{現在（報告時）の完成年度時の状況(C)}}{\text{設置時の計画(A)}} = \frac{129}{97} = \boxed{132.98} \%$$

(注) ・ 小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。

(2) - ⑤ 現在（報告時）の状況における定年を延長している教員構成率

$$\frac{\text{報告時の教員のうち、定年を延長して採用している教員数}}{\text{現在（報告時）の状況(B)}} = \frac{0}{129} = \boxed{0} \%$$

(注) ・ 小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。

(2) - ⑥ 設置時の計画に対する助手充足率

$$\frac{\text{現在（報告時）の完成年度時の状況(C)}}{\text{設置時の計画(A')}} = \frac{0}{0} = \boxed{\#DIV/0!} \%$$

(注) ・ 小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。

(3) 専任教員辞任等の理由

(3) - ① 専任教員の就任辞退（未就任）の理由及び後任補充状況

番号	職位	専任教員氏名	時期	必修・選択・自由の別	担当予定科目	後任補充状況	就任辞退（未就任）の理由			
1	教授	ラトクリフ・ロバート	H00.10	選択	アジア・アフリカ言語論1	①	死去のため(30)			
				選択	アジア・アフリカ言語論2	①				
合計(D)					後任補充状況の集計(E)					
就任を辞退した教員数		担当科目数の合計(a)+(b)+(c)			①の合計数(a)		②の合計数(b)		③の合計数(c)	
1	人	必修	0	科目	必修	0	科目	必修	0	科目
		選択	2	科目	選択	2	科目	選択	0	科目
		自由	0	科目	自由	0	科目	自由	0	科目
		計	2	科目	計	2	科目	計	0	科目

- (注) ・ 認可時又は届出時以降、就任を辞退した全ての専任教員の就任辞退の理由を具体的に記入してください。
- ・ 「就任辞退（未就任）」とは、認可又は届出時に就任予定としながら、実際には就任しなかった教員のことです。就任した後に辞任した教員は、以下「(3) - ②専任教員辞任の理由及び後任補充状況」に記入してください。
 - ・ 昨年度の報告後から今年度の報告時まで専任教員が新たに就任を辞退した場合、赤字にて記入するとともに、「就任辞退（未就任）の理由」に就任辞退の理由等及び()書きで報告年度を記入してください。
 - ・ また、担当予定であった科目の後任補充の状況について、各科目ごとに状況を以下「①」～「③」から選択し、「後任補充理由」の欄にその数字を記載してください。

- | |
|---|
| <ul style="list-style-type: none"> ・ 専任教員が担当する（している）場合は「①」 ・ 兼任兼担教員が担当する（している）場合は「②」 ・ 後任未定、科目廃止など、上記「①」「②」以外の場合は「③」 |
|---|

(3) - ② 専任教員辞任の理由及び後任補充状況

番号	職位	専任教員氏名	時期	必修・選択・自由の別	担当予定科目	後任補充状況	辞任等の理由			
1	准教授	長屋 尚典	H31.3	選択	アジア・アフリカ言語論1	①	H31.3.31付け自己都合のため退職(元)			
				選択	アジア・アフリカ言語論2	①				
2	教授	鈴木 茂	H31.3	選択	ヨーロッパ・アメリカ地域研究1	①	H31.3.31付け自己都合のため退職(元)			
				選択	ヨーロッパ・アメリカ地域研究2	①				
合計(F)					後任補充状況の集計(G)					
辞任した教員数		担当科目数の合計(a)+(b)+(c)			①の合計数(a)		②の合計数(b)		③の合計数(c)	
2	人	必修	0	科目	必修	0	科目	必修	0	科目
		選択	4	科目	選択	4	科目	選択	0	科目
		自由	0	科目	自由	0	科目	自由	0	科目
		計	4	科目	計	4	科目	計	0	科目

- (注) ・ 一度就任した後に、定年による退職以外の理由で辞任した全ての専任教員について記入してください。
- ・ 昨年度の報告後から今年度の報告時まで専任教員が新たに辞任等した場合、赤字にて記入するとともに、「辞任等の理由」に辞任理由等及び()書きで報告年度を記入してください。
 - ・ また、担当予定であった科目の後任補充の状況について、各科目ごとに状況を以下「①」～「③」から選択し、「後任補充理由」の欄にその数字を記載してください。

- | |
|---|
| <ul style="list-style-type: none"> ・ 専任教員が担当する（している）場合は「①」 ・ 兼任兼担教員が担当する（している）場合は「②」 ・ 後任未定、科目廃止など、上記「①」「②」以外の場合は「③」 |
|---|

(3) - ③ 上記(3) - ① ・ (3) - ② の合計

合計(D)+(F)					後任補充状況の集計(E)+(G)					
辞任等した教員数		担当科目数の合計(a)+(b)+(c)			①の合計数(a)		②の合計数(b)		③の合計数(c)	
3	人	必修	0	科目	必修	0	科目	必修	0	科目
		選択	6	科目	選択	6	科目	選択	0	科目
		自由	0	科目	自由	0	科目	自由	0	科目
		計	6	科目	計	6	科目	計	0	科目

(3) -④ 設置時の計画に対する教員辞任率

$$\frac{(3) - \text{③合計(D)+(F)}}{(2) - \text{②設置時の計画(A)}} = \frac{3}{97} = \boxed{3.09} \%$$

(注) ・ 小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。

(3) -⑤ 定年により退職した専任教員に対する後任補充状況

番号	職位	専任教員氏名	必修・選択・自由の別	担当予定科目	後任補充状況	辞任等の理由	
1	教授	高島 英幸	選択	英語学・英語教育学 1	①	H31. 3. 31付け65歳で定年退職 (元)	
			選択	英語学・英語教育学 2	①		
2	准教授	林 和宏	選択	ヨーロッパ・アメリカ文学・文化論 1	①	H31. 3. 31付け64歳で定年退職 (元)	
			選択	ヨーロッパ・アメリカ文学・文化論 2	①		
3	教授	川島 郁夫	選択	アジア・アフリカ文学・文化論 1	①	H31. 3. 31付け65歳で定年退職 (元)	
			選択	アジア・アフリカ文学・文化論 2	①		
4	教授	岡田 和行	選択	アジア・アフリカ文学・文化論 1	①	H31. 3. 31付け65歳で定年退職 (元)	
			選択	アジア・アフリカ文学・文化論 2	①		
5	教授	藤井 守男	選択	アジア・アフリカ文学・文化論 1	①	H31. 3. 31付け65歳で定年退職 (元)	
			選択	アジア・アフリカ文学・文化論 2	①		
6	教授	渡邊 啓貴	選択	国際関係論 1	①	H31. 3. 31付け65歳で定年退職 (元)	
			選択	国際関係論 2	①		
7	教授	岩崎 務	選択	ヨーロッパ・アメリカ文学・文化論 1	①	R2. 3. 31付け65歳で定年退職 (2)	
			選択	ヨーロッパ・アメリカ文学・文化論 2	①		
8	教授	今福 龍太	選択	現代世界論 1	①	R2. 3. 31付け64歳で定年退職 (2)	
			選択	現代世界論 2	①		
9	教授	深澤 秀夫	選択	アジア・アフリカフィールド人類学 1	①	R2. 3. 31付け65歳で定年退職 (2)	
			選択	アジア・アフリカフィールド人類学 2	①		
10	教授	高島 淳	選択	アジア・アフリカフィールド地域研究 1	①	R2. 3. 31付け65歳で定年退職 (2)	
			選択	アジア・アフリカフィールド地域研究 1	①		
合計				後任補充状況の集計			
辞任した教員数		担当科目数の合計 (a) + (b) + (c)		①の合計数 (a)	②の合計数 (b)	③の合計数 (c)	
10	人	必修	0 科目	必修	0 科目	必修	0 科目
		選択	20 科目	選択	20 科目	選択	0 科目
		自由	0 科目	自由	0 科目	自由	0 科目
		計	20 科目	計	20 科目	計	0 科目

(注) ・ 定年により退職した全ての専任教員についてに記入してください。
 ・ 昨年度の報告後から今年度の報告時まで専任教員が新たに辞任等した場合、赤字にて記入するとともに、「辞任等の理由」に辞任理由等及び () 書きで報告年度を記入してください。
 ・ また、担当予定であった科目の後任補充の状況について、各科目ごとに状況を以下「①」～「③」から選択し、「後任補充理由」の欄にその数字を記載してください。

- ・ 専任教員が担当する (している) 場合は「①」
- ・ 兼任兼担教員が担当する (している) 場合は「②」
- ・ 後任未定、科目廃止など、上記「①」「②」以外の場合は「③」

(4) 専任教員交代に係る「大学の所見」及び「学生への周知方法」

【大学の所見】
 専任教員が交代となった「アジア・アフリカフィールドワーク 1・2」は、必修科目ではなく他に担当教員も多数いるため、修了までに必要な科目履修に大幅な影響はないと考える。
 定年により退職した専任教員が担当していた科目については、設置計画時に当該教員の退職を見込んだ上で、必要な担当教員を配置しているため、修了までに必要な科目履修に大幅な影響はない。

【学生への周知方法】
 授業時間割には交代前の教員の授業は記載せず、履修計画に影響がないように周知をした。

(注) ・ 上記 (3) の専任教員辞任等による学生の履修等への影響に関する大学の所見、学生への周知方法、今後の方針などを可能な限り具体的に記入してください。

6 附帯事項等に対する履行状況等

区 分	附 帯 事 項 等	履 行 状 況	今 後 の の 実 施 計 画
		<div data-bbox="646 376 960 443" style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block;">該当なし</div>	

- (注) ・ 「認可時」には、認可時または届出時に付された附帯事項（学校法人の寄附行為又は寄附行為変更の認可の申請に係る附帯事項を除く。）と、それに対する履行状況等について、具体的に記入してください。
- ・ 「設置計画履行状況調査時」には、当該年度の調査の結果、**当該大学に付された指摘を**全て記入するとともに、付された指摘に対する履行状況等について、具体的に記入してください。その履行状況等の参考となる資料があれば、添付してください。
 - ・ 「履行状況」では、履行中であれば「履行中」、履行が完了していれば「履行済」を選択してください。
 - ・ 該当がない場合には、「附帯事項等」の部分に「該当なし」と記入してください。
 - ・ 「設置計画履行状況調査時」には、当該調査の実施年度の年を記入してください。

7 その他全般的事項

<総合国際学研究所 世界言語社会専攻>

(1) 設置計画変更事項等

設置時の計画	変更内容・状況、今後の見通しなど
<div style="border: 1px solid black; padding: 10px; width: fit-content; margin: 0 auto;">該当なし</div>	

(注) ・ 1～6の項目に記入した事項以外で、設置時の計画より変更のあったもの（未実施を含む。）及び法令適合性に関して生じた留意すべき事項について記入してください。

(2) 教員の資質の維持向上の方策（FD・SD活動含む）

<p>① 実施体制</p> <p>a 委員会の設置状況 学部・大学院合同のFD委員会を中心にFD活動の企画・運営を行っている。[別添資料]</p> <p>b 委員会の開催状況（教員の参加状況含む） 令和元年度の実施状況については、計8回開催し、委員の出席率は良好であった。</p> <p>c 委員会の審議事項等 授業の改善に関して、企画、立案、実施、調整等を行う。</p> <p>② 実施状況</p> <p>a 実施内容 評価基準の可視化等の教育手法の改善に向けた取組紹介のほか、アカデミックハラスメントや留学生サポートの手立て等の学生支援全般についても幅広く研修を行っている。</p> <p>b 実施方法 教授会の開催前等、教員の参加しやすい時間帯に設定している。</p> <p>c 開催状況（教員の参加状況含む） 令和元年度は計8回実施し、平均して1回あたり約130名の参加を得た。 これは教授会構成教員の約7割に及ぶ。</p> <p>d 実施結果を踏まえた授業改善への取組状況 「Moodle（教育・学習活動支援システム）を利用した授業の実践」、「成績問い合わせの実例とシラバス作成の留意点」等、授業に直結した事例の紹介を行い、各教員の授業改善に資した。</p> <p>③ 学生に対する授業評価アンケートの実施状況</p> <p>a 実施の有無及び実施時期 有 毎年12月～1月</p> <p>b 教員や学生への公開状況、方法等 学務情報システムによるアンケートにより実施</p>

(注) ・ 「①a 委員会の設置状況」には、関係規程等を転載又は添付すること。
「②実施状況」には、実施されている取組を全て記載すること。（記入例参照）

(3) 教育課程連携協議会に関する事項

※専門職大学、専門職短期大学、専門職大学院以外は「該当なし」と記入ください。

① 体制

a 委員会の設置状況

(委員に変更がある場合は、その内容と各区分を踏まえた委員構成であることを説明してください。
併せて、別途委員名簿を変更内容が分かるよう加筆の上、提出してください。)

b 委員会の開催状況 (回数や開催日など)

c 委員会の審議事項等

該当なし

d その他

② 審議状況

a 審議した内容

記入例)

- ・ 地域との連携に関する〇〇の観点から教育課程に対する提案内容
- ・ 産業界との連携に関する〇〇の観点から教育課程に対する提案内容

b 教育課程連携協議会が審議した内容を踏まえた大学での教育課程への見直し状況

c 教育課程連携協議会が審議した内容を踏まえた大学での教育課程への反映状況

(4) 自己点検・評価等に関する事項

① 設置の趣旨・目的の達成状況に関する総括評価・所見

設置の趣旨・目的を達成するよう、計画通りに実施している。今後更に教育・研究の水準の向上を図り、設置の趣旨・目的の実現に向けて取り組むこととしている。

② 自己点検・評価報告書

a 公表（予定）時期

- ・令和2年度に自己評価を行い、令和3年6月以降に公表予定

b 公表方法

- ・大学ホームページ上に公開予定

③ 認証評価を受ける計画

- ・令和元年度に評価機関（独立行政法人大学改革支援・学位授与機構）の評価を受審済み

(注) ・ 設置時の計画の変更（又は未実施）の有無に関わらず記入してください。

また、「① 設置の趣旨・目的の達成状況に関する総括評価・所見」については、できるだけ具体的な根拠を含めて記入してください。

なお、「② 自己点検・評価報告書」については、当該調査対象の組織に関する評価内容を含む報告書について記入してください。

(5) 情報公表に関する事項

○ 設置計画履行状況報告書（令和2年度）

a 公表予定の有無 [有 ・ 無]

《 a で「有」の場合 》

b 公表（予定）時期 [調査結果公表後 1ヶ月以内 ・ 公表後2～3ヶ月以内 ・ 公表後3ヶ月以降]

c 公表方法 [ウェブサイトへの掲載 ・ その他 ()]

《 a で公表「無」の場合 》

d 公表しない理由 []

※設置計画が各大学等が社会に対して着実に実現していく構想を表したものであることに鑑み、

設置計画履行状況報告書については、各大学等のウェブサイト公表するなど、積極的な情報提供をお願いします。

1 調査対象大学等の概要等

(1) 設置者

国立大学法人東京外国語大学

(2) 大学名

東京外国語大学

(3) 調査対象大学等の位置

〒183-8534

東京都府中市朝日町3-11-1

- (注) ・対象学部等の位置が大学本部の位置と異なる場合、本部の位置を()書きで記入してください。
・対象学部等が複数のキャンパスに所在する場合には、複数のキャンパスの所在地をそれぞれ記載してください。

(4) 管理運営組織

職名	設置時	変更状況	備考
学長	(タテイシ ヒロタカ) 立石 博高 (平成25年4月)	(ハヤシ カヨコ) 林 佳世子 (平成31年4月)	任期満了に伴う変更 (元)
研究科長	(アオヤマ トオル) 青山 亨 (平成29年4月)		

- (注) ・「変更状況」は、変更があった場合に記入し、併せて「備考」に変更の理由と変更年月日、報告年度を()書きで記入してください。

(例) 令和元年度に報告済の内容 → (元)

令和2年度に報告する内容 → (2)

- ・昨年度の報告後から今年度の報告時までに変更があれば、「変更状況」に赤字にて記載(昨年度までに報告された記載があれば、そこに赤字で見え消し修正)するとともに、上記と同様に、「備考」に変更理由等を記入してください。
- ・大学院の場合には、「職名」を「研究科長」等と修正して記入してください。
- ・大学独自の職名を設けていて当該職位がない場合は、各職に相当する職名の方を記載してください。

(5) 調査対象学部等の名称、定員、入学者の状況等

- (注) ・ 当該調査対象の学部等の学科または研究科の専攻等、定員を定めている組織ごとに記入してください(入試区分ごとではありません)。
 ・ なお、課程認定等によりコースや専攻に入学定員を定めている場合は、法令上規定されている最小単位(大学であれば「学科」、短期大学であれば「専攻課程」)でも記載してください。その場合適宜各項目の表を追加してください。
 ・ 様式は、平成28年度開設の4年制の学科の完成年度を越えて報告する場合(令和2年度までの5年間)ですが、完成年度を越えていない場合は修業年限に合わせて作成してください。(修業年限が4年以下の場合には欄を削除し、5年以上の場合には、欄を設けてください。)
 ・ 留学生については、「出入国管理及び難民認定法」別表第一に定められる「『留学』の在留資格(いわゆる「留学ビザ」)により、我が国の大学(大学院を含む。)、短期大学、高等専門学校、専修学校(専門課程)及び我が国の大学に入学するための準備教育課程を設置する教育施設において教育を受ける外国人学生」を記載してください。
 ・ 短期交換留学生など、定員内に含めていない学生については記入しないでください。

(5) - ① 調査対象学部等の名称等

調査対象学部等の名称(学位)	学位又は学科の分野	設置時の計画				備考
		修業年限	入学定員	編入学定員	收容定員	
総合国際学研究所 国際日本専攻 博士(学術)	文学関係 社会学・社会福祉学関係	3年	10人	- 年次人	30人	基礎となる学部等:総合国際学研究所博士前期課程

- (注) ・ 定員を変更した場合は、「備考」に変更前的人数、変更年月及び報告年度を()書きで記入してください。
 ・ 基礎となる学部等がある場合には、「備考」に基礎となる学部等の名称を記入してください。
 ・ 学生募集停止を予定している場合は、「備考」に「令和〇年度から学生募集停止(予定)」と記載してください。
 ・ 「学位又は学科の分野」には、「認可申請書」又は「設置届出書」の「教育課程等の概要(別記様式第2号(その2の1))」の「学位又は学科の分野」と同様に記入してください。

(5) - ② 調査対象学部等の入学者の状況

区分	平成30年度		令和元年度		令和2年度		平均入学定員超過率	開設年度から報告年度までの平均入学定員超過率	備考
	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期			
A 入学定員	9人 (-) [-]	1人 (-) [-]	9人 (-) [-]	1人 (-) [-]	9人 (-) [-]	1人 (-) [-]	1.00倍	-	
志願者数	17 (-) [13]	1 (-) [-]	24 (-) [16]	4 (-) [4]	16 (-) [10]				
受験者数	16 (-) [13]	1 (-) [-]	21 (-) [13]	4 (-) [4]	12 (-) [8]				
合格者数	10 (-) [7]	1 (-) [-]	13 (-) [7]	2 (-) [2]	10 (-) [6]				
B 入学者数	9 (-) [6]	1 (-) [-]	10 (-) [3]	0 (-) [-]	10 (-) [6]				
入学定員超過率 B/A	1.00		1.00		1.00				

- (注) ・ 報告年度の5月1日現在の情報を記入してください。(過年度については、各年度末時点の情報として記入してください。)
 ・ () 内には、編入学の状況について外数で記入してください。なお、編入学を複数年次で行っている場合には、(())書きとするなどし、その旨を「備考」に付記してください。該当がない年度には「-」を記入してください。
 ・ 転入学生は記入しないでください。
 ・ []内には、留学生の状況について内数で記入してください。該当がない年には「-」を記入してください。
 ・ 学期の区分に従い学生を入学させる場合は、春季入学とその他の学期(春季入学以外の学期区分を設けている場合)に分けて数値を記入してください。春季入学のみの実施の場合は、その他の学期欄は「-」を記入してください。また、その他の学期に入学定員を設けている場合は、備考欄にその人数を記入してください。
 ・ 「入学定員超過率」については、各年度の春季入学とその他を合計した入学定員、入学者数で算出してください。なお、計算の際は小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで記入してください。
 ・ 「平均入学定員超過率」には、開設年度から報告年度までの入学定員超過率の平均を記入してください。計算の際は「入学定員超過率」と同様にしてください。なお、完成年度を越えて報告書を提出する大学等は、報告年度(令和2年度)から起算した修業年限に相当する期間の入学定員超過率の平均を記載してください。
 ・ 「開設年度から報告年度までの平均入学定員超過率」は、完成年度を越えて報告書を提出する大学等のみ記入してください。完成年度を越えていない場合は「-」を記入してください。

(5) -③ 調査対象学部等の在学者の状況

対象年度 学 年	平成30年度		令和元年度		令和2年度		備 考
	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	
1年次	9 [6] (-)	1 [-] (-)	10 [3] (-)	0 [-] (-)	10 [6] (-)	0 [-] (-)	
2年次	/		9 [6] (-)	1 [-] (-)	10 [3] (-)	1 [-] (-)	
3年次	/		/		9 [6] (-)	0 [-] (-)	
計	10 [6] (-)		20 [9] (-)		30 [15] (-)		

・令和2年5月1日 公表

- (注) ・ 報告年度の5月1日現在の情報を記入してください。(過年度については、各年度末時点の情報として記入してください。)
- ・ []内には、留学生の状況について内数で記入してください。該当がない年度には「-」を記入してください。
 - ・ ()内には、留年者の状況について、内数で記入してください。該当がない年には「-」を記入してください。
 - ・ 編入学生や転入学生も含めて記入してください。その際、備考欄に人数の内訳を記入してください。
 - ・ 学期の区分に従い学生を入学させる場合は、春季入学とその他の学期（春季入学以外の学期区分を設けている場合）に分けて数値を記入してください。春季入学のみの実施の場合は、その他の学期欄は「-」を記入してください。また、その他の学期に入学定員を設けている場合は、備考欄にその人数を記入してください。
 - ・ 「計」については、各年度の春季入学とその他の学期を合計した在学者数、留学生数を記入してください。

(5) -④ 調査対象学部等の退学者等の状況

区分 対象年度	在学者数(b)	退学者数(a)	内訳			主な退学理由 (留学生の理由は[]書き)
			入学した年度	退学者数		
				うち留学生数		
平成30年度	10 人	0 人	平成30年度	0 人	0 人	
令和元年度	20 人	0 人	平成30年度	0 人	0 人	
			令和元年度	0 人	0 人	
令和2年度	30 人	0 人	平成30年度	0 人	0 人	
			令和元年度	0 人	0 人	
			令和2年度	0 人	0 人	
合 計		0 人		0 人	0 人	

(注)・数字は、報告年度の5月1日現在の数字を記入してください。

- ・各対象年度の在学者数については、対象年度の人数を記入してください。(在学者数から退学者数を減らす必要はありません。)
- ・内訳については、退学した学生が入学した年度ごとに記入してください。また、留学生数欄の人数については、退学者数の内数を記入してください。
- ・在学者数、退学者数には編入学生や転入学生も含めて記入してください。
- ・「主な退学理由」は、下の項目を参考に記入してください。その際、「就学意欲の低下(○人)」というように、その人数も含めて記入してください。
(記入項目例)・就学意欲の低下 ・学力不足 ・他の教育機関への入学・転学 ・海外留学
・就職 ・学生個人の心身に関する事情 ・家庭の事情 ・除籍 ・その他

(5) -⑤ 調査対象学部等の年度ごとの退学者の割合

【平成30年度】

$$\frac{\text{平成30年度の退学者数(a)}}{\text{平成30年度の在学者数(b)}} = \frac{0}{10} = \boxed{0} \%$$

【令和元年度】

$$\frac{\text{令和元年度の退学者数(a)}}{\text{令和元年度の在学者数(b)}} = \frac{0}{20} = \boxed{0} \%$$

【令和2年度】

$$\frac{\text{令和2年度の退学者数(a)}}{\text{令和2年度の在学者数(b)}} = \frac{0}{30} = \boxed{0} \%$$

(注)・小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。

2 授業科目の概要

<総合国際学研究科 国際日本専攻>

(1) -① 授業科目表

【認可時又は届出時】

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼任	
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手		
共通科目	(研究科共通科目)											
	異分野交流研究1	1-2-3①		2		1						
	異分野交流研究2	1-2-3③		2							1	
	小計(2科目)	-	0	4	0	1	0	0	0	0	0	1
国際日本専攻	<国際日本プログラム>											
	日本語論1	1-2-3①		2		1						
	日本語論2	1-2-3③		2		1						
	日本語教育論1	1-2-3①		2		2	2					
	日本語教育論2	1-2-3③		2		2	2					
	言語教育論1	1-2-3①		2		1	1					
	言語教育論2	1-2-3③		2		1	1					
	日本語文学・文化論1	1-2-3①		2			1					
	日本語文学・文化論2	1-2-3③		2			1					
	日本歴史社会論1	1-2-3①		2		1						
	日本歴史社会論2	1-2-3③		2		1						
	日本政治経済論	1-2-3①		2			1					
	日本政治経済論	1-2-3③		2			1					
	Japan Studies 1	1-2-3②		2							1	
Japan Studies 2	1-2-3④		2							1		
	小計(14科目)	-	0	28	0	5	5	0	0	0	0	2
	合計(16科目)	-	0	32	0	5	5	0	0	0	0	3
卒業要件及び履修方法												
在学期間中に研究科共通科目、または国際日本学専攻で開講される授業科目を履修し、12単位以上を修得する。なお、総合国際学研究科世界言語社会専攻の科目を、4単位を上限に、修了所要単位に含めることができる。												

【令和2年度】

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼任	
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手		
共通科目	(研究科共通科目)											
	異分野交流研究1	1-2-3①		2								2
	異分野交流研究2	1-2-3③		2		1						3
	小計(2科目)	-	0	4	0	1	0	0	0	0	0	3
国際日本専攻	<国際日本プログラム>											
	日本語論1	1-2-3①		2		1	1					
	日本語論2	1-2-3③		2		1	1					
	日本語教育論1	1-2-3①		2		3	1					
	日本語教育論2	1-2-3③		2		3	1					
	言語教育論1	1-2-3①		2		1	1					
	言語教育論2	1-2-3③		2		1	1					
	日本語文学・文化論1	1-2-3①		2		2						
	日本語文学・文化論2	1-2-3③		2		2						
	日本歴史社会論1	1-2-3①		2		1	1					
	日本歴史社会論2	1-2-3③		2		1	1					
	日本政治経済論	1-2-3①		2		2	1					
	日本政治経済論	1-2-3③		2		2	1					
	Japan Studies 1	1-2-3②		2				1				
Japan Studies 2	1-2-3④		2		1							
	小計(14科目)	-	0	28	0	11	5	0	0	0	0	0
	合計(16科目)	-	0	32	0	11	5	0	0	0	0	3
卒業要件及び履修方法												
在学期間中に研究科共通科目、または国際日本学専攻で開講される授業科目を履修し、12単位以上を修得する。なお、総合国際学研究科世界言語社会専攻の科目を、4単位を上限に、修了所要単位に含めることができる。												

【平成30年度】

【令和元年度】

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼任	
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手		
共通科目	(研究科共通科目)											
	異分野交流研究1	1-2-3①		2								2
	異分野交流研究2	1-2-3③		2		1						3
	小計(2科目)	-	0	4	0	1	0	0	0	0	0	3
国際日本専攻	<国際日本プログラム>											
	日本語論1	1-2-3①		2		2	1					
	日本語論2	1-2-3③		2		2	1					
	日本語教育論1	1-2-3①		2		4	2					
	日本語教育論2	1-2-3③		2		4	2					
	言語教育論1	1-2-3①		2		1	1					
	言語教育論2	1-2-3③		2		2						
	日本語文学・文化論1	1-2-3①		2		2						
	日本語文学・文化論2	1-2-3③		2		2						
	日本歴史社会論1	1-2-3①		2		2						
	日本歴史社会論2	1-2-3③		2		2						
	日本政治経済論	1-2-3①		2		1						
	日本政治経済論	1-2-3③		2		1						
	Japan Studies 1	1-2-3②		2		1						
Japan Studies 2	1-2-3④		2		1							
	小計(14科目)	-	0	28	0	12	4	0	0	0	0	0
	合計(16科目)	-	0	32	0	12	4	0	0	0	0	3
卒業要件及び履修方法												
在学期間中に研究科共通科目、または国際日本学専攻で開講される授業科目を履修し、12単位以上を修得する。なお、総合国際学研究科世界言語社会専攻の科目を、4単位を上限に、修了所要単位に含めることができる。												

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼任	
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手		
共通科目	(研究科共通科目)											
	異分野交流研究1	1-2-3①		2								2
	異分野交流研究2	1-2-3③		2		1						3
	小計(2科目)	-	0	4	0	1	0	0	0	0	0	3
国際日本専攻	<国際日本プログラム>											
	日本語論1	1-2-3①		2		2	1					
	日本語論2	1-2-3③		2		2	1					
	日本語教育論1	1-2-3①		2		2	1					
	日本語教育論2	1-2-3③		2		3	2					
	言語教育論1	1-2-3①		2		1	1					
	言語教育論2	1-2-3③		2		1	1					
	日本語文学・文化論1	1-2-3①		2		2						
	日本語文学・文化論2	1-2-3③		2		2						
	日本歴史社会論1	1-2-3①		2		2						
	日本歴史社会論2	1-2-3③		2		2						
	日本政治経済論	1-2-3①		2		2	1					
	日本政治経済論	1-2-3③		2		2	1					
	Japan Studies 1	1-2-3②		2		1						
Japan Studies 2	1-2-3④		2		1							
	小計(14科目)	-	0	28	0	12	5	0	0	0	0	0
	合計(16科目)	-	0	32	0	12	5	0	0	0	0	3
卒業要件及び履修方法												
在学期間中に研究科共通科目、または国際日本学専攻で開講される授業科目を履修し、12単位以上を修得する。なお、総合国際学研究科世界言語社会専攻の科目を、4単位を上限に、修了所要単位に含めることができる。												

- (注) ・ 報告年度の5月1日現在の情報を記入してください。(過年度については、各年度末時点の情報として記入してください。)
- ・ 認可申請書又は設置届出書の様式第2号(その2の1)に準じて作成してください。
 - ・ 各欄の作成方法は「大学の設置等に係る提出書類作成の手引き」の「教育課程等の概要」を確認してください。
 - ・ 「認可時又は届出時」には 設置認可時又は届出時の授業科目全て(兼任、兼任教員が担当する科目を含む。)を黒字で記入してください。その上で、各年度については、認可時又は届出時から変更となっている箇所は**赤字**としてください。
 - ・ 履修希望者がいなかったために未開講となった科目についても科目名の後ろに「(未開講)」として記入してください。
 - ・ 1ページ目には認可時又は届出時と報告年度2つの表を記入してください。
 - ・ 不要な年度(平成30年度開設であれば平成29年度)の表は適宜削除してください。
- (2つの表が1ページに表示されるようにしてください。)
- ・ 専門職大学等の場合、「実験、実習又は実技による授業科目」には「【※】」、「臨地実務実習」による授業科目には「【臨】」、「連携実務演習」による授業科目には「【連】」を授業科目の名称の右側に記入してください。

(1) ②授業科目表に関する変更内容

【平成30年度】

- ・科目内容（異分野交流）に鑑み、「異分野交流研究1」に兼任教員を1名追加。
- ・科目内容（異分野交流）を鑑み、「異分野交流研究2」における「教授1」の担当者を変更し、兼任教員を3名追加。
- ・教育内容の充実、指導体制強化のため、「日本語言語論1・2」の専任教員等の配置を「教授1」から「教授2」「准教授1」に変更。
- ・教育内容の充実のため、「日本語教育論1・2」の専任教員等の配置を「教授2」「准教授2」から「教授4」「准教授2」に変更。
- ・教育内容の充実、科目内容を鑑みた担当者変更のため、「日本語文学・文化論1・2」の専任教員等の配置を「准教授1」から「教授2」に変更。
- ・教育内容の充実のため、「日本歴史社会論1・2」の専任教員等の配置を「教授1」から「教授2」に変更。
- ・科目内容を鑑みた担当者変更のため、「日本政治経済論1・2」の専任教員等の配置を「准教授1」から「教授1」に変更。
- ・科目内容を鑑みた担当者変更のため、「Japan Studies1・2」の専任教員等の配置を「兼任教員1」から「教授1」に変更。

【令和元年度】

- ・担当教員の退職、専任教員特別研修のため、「日本語教育論1」の専任教員等の配置を「教授4」「准教授2」から「教授2」「准教授1」に変更。
- ・担当教員の退職のため、「日本語教育論2」の専任教員等の配置を「教授4」から「教授3」に変更。
- ・科目内容を鑑みた担当者変更のため、「言語教育論2」の専任教員等の配置を「教授2」から「准教授1」「教授1」に変更。
- ・指導体制強化のため、「日本政治経済論1・2」の専任教員等の配置を「教授1」から「教授2」「准教授1」に変更。

【令和2年度】

- ・担当教員の退職のため、「日本語言語論1・2」の専任教員等の配置を「教授2」から「教授1」に変更。
- ・指導体制強化のため、「日本語教育論1」の専任教員等の配置を「教授2」から「教授3」に変更。

- (注) ・ 2(1) ① 授業科目表に記入された各年度における変更内容（配当年次の変更、専任教員等の配置の変更、授業科目名の変更、新規科目の追加など）を箇条書きで記入してください。変更がない年度は「特になし。」と記入してください。
- ・ 変更内容には、授業科目の未開講や廃止については記入しないでください。
 - ・ 不要な年度（平成30年度開設であれば平成29年度）の表は適宜削除してください。

(2) 授業科目数

設置時の計画				変更状況				備考
必修	選択	自由	計(A)	必修	選択	自由	計	
0 科目	16 科目	0 科目	16 科目	0 科目 [0]	16 科目 [0]	0 科目 [0]	0 科目 [0]	

- (注) ・ 未開講科目も含めた教育課程上の授業科目数を記入するとともに、[] 内に、設置時の計画からの増減を記入してください。（記入例：1科目減の場合：△1）

(3) 未開講科目

番号	授業科目名	単位数	配当年次	一般・専門	必修・選択	未開講の理由、代替措置の有無
1			該当なし			
2						
3						

- (注) ・ 配当年次に達しているにも関わらず、何らかの理由で未開講となっている授業科目について記入してください。なお、理由については可能な限り具体的に記入してください。
- ・ 履修希望者がいなかったために未開講となった科目については記入しないでください。
 - ・ 教職大学院の場合は、「一般・専門」を「共通・実習・その他」と修正して記入してください。
 - ・ 専門職大学等の場合は、「一般・専門」を「基礎、展開、職業専門、総合」と修正して記入してください。

(4) 廃止科目

番号	授業科目名	単位数	配当年次	一般・専門	必修・選択	廃止の理由、代替措置の有無
1			該当なし			
2						
3						

- (注) ・ 設置時の計画にあり、何らかの理由で廃止（教育課程から削除）した授業科目について記入してください。なお、理由については可能な限り具体的に記入してください。
- ・ 教職大学院の場合は、「一般・専門」を「共通・実習・その他」として記入してください。
 - ・ 専門職大学等の場合は、「一般・専門」を「基礎、展開、職業専門、総合」と修正して記入してください。

(5) 授業科目を未開講又は廃止としたことに係る「大学の所見」及び「学生への周知方法」

該当なし

- (注) ・ 授業科目を未開講又は廃止としたことによる学生の履修への影響に関する大学の所見、学生への周知方法、今後の方針などを可能な限り具体的に記入してください。

(6) 「設置時の計画の授業科目数の計」に対する「未開講科目と廃止科目の計」の割合

$$\frac{\text{未開講科目(3)と廃止科目(4)の計}}{\text{設置時の計画の授業科目数の計(A)}} = \frac{0}{16} = \boxed{0\%}$$

- (注) ・ 小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。
- ・ 「未開講科目と廃止科目の計」が、「(3)未開講科目」と「(4)廃止科目」の合計数となるように留意してください。

3 施設・設備の整備状況、経費

区 分		内 容				備 考			
(1) 校 地 等	区 分	専 用	共 用	共用する他の 学校等の専用	計				
	校舎敷地	94,250 m ²	0 m ²	0 m ²	94,250 m ²				
	運動場用地	27,758 m ²	0 m ²	0 m ²	27,758 m ²				
	小 計	122,008 m ²	0 m ²	0 m ²	122,008 m ²				
	そ の 他	7,992 m ²	0 m ²	0 m ²	7,992 m ²				
	合 計	130,000 m ²	0 m ²	0 m ²	130,000 m ²				
(2) 校 舎	専 用	42,158 m ²	0 m ²	0 m ²	42,158 m ²				
	(42,158 m ²)	(0 m ²)	(0 m ²)	(0 m ²)	(42,158 m ²)				
(3) 教 室 等	講 義 室	43 42 室	演 習 室 42 39 42 室	実験実習室 1 室	情報処理学習施設 6 室 (補助職員 0 人)	語学学習施設 3 4 室 (補助職員 5 人)	大学全体 利用目的変更(元) 利用目的変更(2)		
	(4) 専任教員研究室		新設学部等の名称 国際日本専攻		室 数 16 47 室		専任教員の退職に伴う 変更(2)		
(5) 図 書 ・ 設 備	新設学部等の 名称	図 書 〔うち外国書〕 冊	学術雑誌 〔うち外国書〕 種	電子ジャーナル 〔うち外国書〕 種	視聴覚資料 点	機械・器具 点	標 本 点	大学全体 受入・廃棄等に伴う変 更(元) 受入・廃棄等に伴う変 更(2)	
	世界言語社会専 攻	855,261 [463,980] (870,918 [472,776]) (-867,836 [471,588]) (-863,350 [467,428])	9,607 [3,370] (10,023 [3,727]) (-9,909 [3,668]) (-9,769 [3,565])	6,473 [5,904] (18,165 [14,744]) (-8,426 [8,426]) (-6,473 [5,904])	1188 (1,188)	7 (7)	0 (0)		
	計	855,261 [463,980] (870,918 [472,776]) (-867,836 [471,588]) (-863,350 [467,428])	9,607 [3,370] (10,023 [3,727]) (-9,909 [3,668]) (-9,769 [3,565])	6,473 [5,904] (18,165 [14,744]) (-8,426 [8,426]) (-6,473 [5,904])	1188 (1,188)	7 (7)	0 (0)		
(6) 図 書 館	面 積	6,930m ²		閱 覧 座 席 数	564席		収 納 可 能 冊 数	689,694冊	大学全体
	(7) 体 育 館	面 積	3,040 m ²		体 育 館 以 外 の ス ポ ー ツ 施 設 の 概 要			テニスコート 5面	大学全体
(8) 経 費 の 見 積 り 及 び 維 持 方 法 の 概 要	経 費 の 見 積 り	区 分	開設年度	完成年度	区 分	開設前年度	開設年度	完成年度	
		教員 1 人 当 り 研 究 費 等	千円	千円	図書購入費	千円	千円	千円	
	共 同 研 究 費 等	千円	千円	設備購入費	千円	千円	千円		
	学 生 1 人 当 り 納 付 金	第 1 年 次	第 2 年 次	第 3 年 次	第 4 年 次	第 5 年 次	第 6 年 次		
学生納付金以外の維持方法の概要									

(注) ・ 設置時の計画を、申請書の様式第2号(その1の1)に準じて作成してください。(複数のキャンパスに分かれている場合、複数の様式に分ける必要はありません。なお、「(1)校地等」及び「(2)校舎」は大学全体の数字を、その他の項目はAC対象学部等の数値を記入してください。)

- ・ 運動場用地が校舎敷地と別地にある場合は、その旨(所要時間・距離等)を「備考」に記入してください。
- ・ 「(5)図書・設備」については、上段に完成年度の予定数値を、下段には令和2年5月1日現在の数値を記入してください。
- ・ 昨年度の報告後から今年度の報告時までに変更のあったものについては、変更部分を赤字で見え消し修正するとともに、その理由及び報告年度「(2)」を「備考」に赤字で記入してください。
 なお、昨年度の報告において赤字で見え消した部分については、見え消しのまま黒字にしてください。
- ・ 校舎等建物の計画の変更(校舎又は体育館の総面積の減少、建築計画の遅延)がある場合には、「建築等設置計画変更書」を併せて提出してください。
 なお、昨年度の報告において赤字で見え消した部分については、黒字で記入してください。
- ・ 国立大学については「(8)経費の見積り及び維持方法の概要」は記載不要です。

4. 既設大学等の状況

大学等の名称											備考
既設学部等の名称	修業 年限	入学 定員	編入学 定員	収容 定員	学位又 は称号	平均入学 定員 超過率	令和2年度 入学定員 超過率	定員変更 年度 (AC期間の 学科のみ)	開設 年度	所在地	
	年	人	年次 人	人		倍	倍	年度	年度	年度	
東京外国語大学											
言語文化学部 言語文化学科	4	335	3年次 15	1,440	学士(言語・地域 文化)	1.04	1.04	平成31年度	平成24年度	東京都府中市朝日町三丁目11番1号	入学定員変更(△35) 令和3年度から編入学定員変更(△5)予定
国際社会学部 国際社会学科	4	335	3年次 15	1,450	学士(言語・地域 文化)	1.05	1.00	平成31年度	平成24年度	同上	入学定員変更(△40) 令和3年度から編入学定員変更(△5)予定
国際日本学部 国際日本学科	4	75	3年次 10	150	学士(言語・地域 文化)	1.09	1.10	-	平成31年度	同上	
大学全体	4	745	30	3,040	-	-	-	-	-	-	
大学等の名称											備考
既設学部等の名称	修業 年限	入学 定員	編入学 定員	収容 定員	学位又 は称号	平均入学 定員 超過率	令和2年度 入学定員 超過率	定員変更 年度 (AC期間の 学科のみ)	開設 年度	所在地	
	年	人	年次 人	人		倍	倍				
東京外国語大学大学院											
総合国際学研究所 博士前期課程											
世界言語社会専攻	2	102	-	204	修士(学術) 修士(文学) 修士(言語学) 修士(国際学)	0.88	0.77	-	平成28年度	同上	
国際日本専攻	2	46	-	86	修士(学術) 修士(文学) 修士(言語学) 修士(国際学)	0.97	0.89	-	平成28年度	同上	
言語文化専攻	2	-	-	-	修士(学術) 修士(文学) 修士(言語学) 修士(国際学)	-	-	-	平成19年度	同上	平成28年度より学 生募集停止
言語応用専攻	2	-	-	-	修士(学術) 修士(文学) 修士(言語学) 修士(国際学)	-	-	-	平成19年度	同上	平成28年度より学 生募集停止
地域・国際専攻	2	-	-	-	修士(学術) 修士(文学) 修士(言語学) 修士(国際学)	-	-	-	平成19年度	同上	平成28年度より学 生募集停止
国際協力専攻	2	-	-	-	修士(学術) 修士(文学) 修士(言語学) 修士(国際学)	-	-	-	平成19年度	同上	平成28年度より学 生募集停止
博士後期課程											
世界言語社会専攻	3	27	-	84	博士(学術)	0.91	0.59	平成31年度	平成30年度	同上	入学定員変更(△3)
国際日本専攻	3	10	-	30	博士(学術)	1.00	1.00	-	平成30年度	同上	
共同サステイナビ リティ研究専攻	3	3	-	6	博士(学術)	0.83	0.33	-	平成31年度	同上	
言語文化専攻	3	-	-	-	博士(学術)	-	-	-	平成21年度	同上	平成30年度より学 生募集停止
国際社会専攻	3	-	-	-	博士(学術)	-	-	-	平成21年度	同上	平成30年度より学 生募集停止
大学院全体	5	188	-	410	-	-	-	-	-	-	

- (注) ・本調査の対象となっている大学等の設置者が既に設置している全ての大学(大学院含む)、短期大学及び高等専門学校についてそれぞれの学校ごとに、報告年度の5月1日現在の状況を記入してください。
(専攻科及び別科を除く)。
・学部・学科または研究科の専攻等、「入学定員を定めている組織」ごとに全ての組織を記入してください。
※「入学定員を定めている組織」ごとには、課程認定等によりコース・専攻に入学定員を定めている場合を含めます。履修上の区分としてコース・専攻を設けている場合は含めません。
・本年度AC対象となる学部等については、必ず下線を引いてください。
・「平均入学定員超過率」には、報告年度(令和2年度)から起算した修業年限に相当する期間の入学定員超過率の平均を記載してください。
・「備考」の欄については、学年進行中の入学定員の増減や学生募集停止など、収容定員に影響のある情報を記入してください。

5 教員組織の状況

<総合国際学研究科 国際日本専攻>

(1) ① 担当教員表

【認可時又は届出時】

【平成30年度】

【令和元年度】

【令和2年度】

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢)	専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢)	専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢)	専任・兼任・兼任の別	職名
		<就任(予定)年月> 保有学位等			<就任(予定)年月> 保有学位等			<就任(予定)年月> 保有学位等		
		担当授業科目名			担当授業科目名			担当授業科目名		
			専	教授	柴田 勝二 <平成30年4月>	専	教授	柴田 勝二 <平成30年4月> 博士(文学)	専	教授
					異分野交流研究2 日本語文学・文化論1 日本語文学・文化論2			異分野交流研究2 日本語文学・文化論1 日本語文学・文化論2		
専	教授	川村 大 <平成30年4月>	専	教授	川村 大 <平成30年4月>	専	教授	川村 大 <平成30年4月> 修士(文学)	専	教授
		異分野交流研究2 日本語論1 日本語論2			日本語論1 日本語論2			日本語論1 日本語論2		
			専	准教授	花園 悟 <平成30年4月>	専	准教授	花園 悟 <平成30年4月> 博士(言語文化学)	専	准教授
					日本語論1 日本語論2			日本語論1 日本語論2		
			専	教授	早津 恵美子 <平成30年4月>	専	教授	早津 恵美子 <平成30年4月> 博士(文学)		
					日本語論1 日本語論2 言語教育論2 Japan Studies 1 Japan Studies 2			日本語論1 日本語論2 Japan Studies 1		
専	教授	海野 多枝 <平成30年4月>	専	教授	海野 多枝 <平成30年4月>	専	教授	海野 多枝 <平成30年4月> Ph.D.(哲学)	専	教授
		日本語教育論1 日本語教育論2			日本語教育論1 日本語教育論2			日本語教育論1 日本語教育論2		
専	教授	鈴木 智美 <平成30年4月>	専	教授	鈴木 智美 <平成30年4月>	専	教授	鈴木 智美 <平成30年4月> 博士(学術)	専	教授
		日本語教育論1 日本語教育論2			日本語教育論1 日本語教育論2			日本語教育論2		
									専	教授
専	准教授	阿部 新 <平成30年4月>	専	准教授	阿部 新 <平成30年4月>	専	准教授	阿部 新 <平成30年4月> 博士(学術)	専	准教授
		日本語教育論1 日本語教育論2			日本語教育論1 日本語教育論2			日本語教育論1 日本語教育論2		
専	准教授	中井 陽子 <平成30年4月>	専	准教授	中井 陽子 <平成30年4月>	専	准教授	中井 陽子 <平成30年4月> 博士(日本語教育学)	専	教授
		日本語教育論1 日本語教育論2			日本語教育論1 日本語教育論2			日本語教育論2		
			専	教授	伊東 祐郎 <平成30年4月>					
					日本語教育論1 日本語教育論2					
			専	教授	藤森 弘子 <平成30年4月>	専	教授	藤森 弘子 <平成30年4月> 修士(言語学)		
					日本語教育論1 日本語教育論2			日本語教育論1 日本語教育論2		

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等	専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等	専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等	専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等
		担当授業科目名			担当授業科目名			担当授業科目名			担当授業科目名
専	教授	荒川 洋平 <平成30年4月>	専	教授	荒川 洋平 <平成30年4月>	専	教授	荒川 洋平 <平成30年4月> 修士(教育学)	専	教授	荒川 洋平 <平成30年4月> 修士(教育学)
		言語教育論 1 言語教育論 2			言語教育論 1 言語教育論 2			言語教育論 1 言語教育論 2			言語教育論 1 言語教育論 2
専	准教授	谷口 龍子 <平成30年4月>	専	准教授	谷口 龍子 <平成30年4月>	専	准教授	谷口 龍子 <平成30年4月> 博士(学術)	専	准教授	谷口 龍子 <平成30年4月> 博士(学術)
		言語教育論 1 言語教育論 2			言語教育論 1			言語教育論 1 言語教育論 2			言語教育論 1 言語教育論 2
専	准教授	菅長 理恵 <平成30年4月>									
		日本語文学・文化論 1 日本語文学・文化論 2									
			専	教授	村尾 誠一 <平成30年4月>	専	教授	村尾 誠一 <平成30年4月> 修士(文学)	専	教授	村尾 誠一 <平成30年4月> 修士(文学)
					日本語文学・文化論 1 日本語文学・文化論 2			日本語文学・文化論 1 日本語文学・文化論 2			日本語文学・文化論 1 日本語文学・文化論 2
専	教授	フィリップ・シートン <平成30年4月>	専	教授	フィリップ・シートン <平成30年4月>	専	教授	フィリップ・シートン <平成30年4月> 博士(文学)	専	教授	フィリップ・シートン <平成30年4月> 博士(文学)
		日本歴史社会論 1 日本歴史社会論 2			日本歴史社会論 1 日本歴史社会論 2			日本歴史社会論 1 日本歴史社会論 2			日本歴史社会論 1 日本歴史社会論 2
			専	教授	宮城 徹 <平成30年4月>	専	教授	宮城 徹 <平成30年4月> 博士			
					日本歴史社会論 1 日本歴史社会論 2			日本歴史社会論 1 日本歴史社会論 2			
									専	准教授	ポーター・ジョン <令和2年4月> Ph.D.(史学)
											日本歴史社会論 1 日本歴史社会論 2
専	准教授	春名 展生 <平成30年4月>				専	准教授	春名 展生 <平成30年4月> 博士(学術)	専	准教授	春名 展生 <平成30年4月> 博士(学術)
		日本政治経済論 1 日本政治経済論 2						日本政治経済論 1 日本政治経済論 2			日本政治経済論 1 日本政治経済論 2
			専	教授	友常 勉 <平成30年4月>	専	教授	友常 勉 <平成30年4月> 博士(学術)	専	教授	友常 勉 <平成30年4月> 博士(学術)
					日本政治経済論 1 日本政治経済論 2			日本政治経済論 1 日本政治経済論 2 Japan Studies 2			日本政治経済論 1 日本政治経済論 2 Japan Studies 2
						専	教授	佐藤 正広 <平成31年4月> 博士(経済学)	専	教授	佐藤 正広 <平成30年4月> 博士(経済学)
								日本政治経済論 1 日本政治経済論 2			日本政治経済論 1 日本政治経済論 2
			兼任	教授	加藤 雄二 <平成30年4月> 修士(文学)	兼任	教授	加藤 雄二 <平成30年4月> 修士(文学)	兼任	教授	加藤 雄二 <平成30年4月> 修士(文学)
					異分野交流研究 2			異分野交流研究 2			異分野交流研究 2
兼任	教授	鈴木 玲子 <平成30年4月>	兼任	教授	鈴木 玲子 <平成30年4月>						
		異分野交流研究 1			異分野交流研究 1 異分野交流研究 2						

(1) ②担当教員表に関する変更内容

【平成30年度】

- ・教育内容充実のため、下記の教員を追加。
柴田勝二教授（日本語文学・文化論1・2）
早津恵美子教授（日本語論1・2、言語教育論2）
伊藤祐郎教授（日本語教育論1・2）
藤森弘子教授（日本語教育論1・2）
村尾誠一教授（日本語文学・文化論1・2）
宮城徹教授（日本歴史社会論1・2）
- ・指導体制強化のため、下記の教員を追加。
花岡悟准教授（日本語論1・2）
- ・科目内容を鑑みた担当者の変更。
川村大教授から柴田勝二教授（異分野交流研究2）
春名展生准教授から友常勉教授（日本政治経済論1・2）
早津恵美子教授（Japan Studies 1・2）
- ・科目内容（異分野交流）に鑑み、下記の兼任教員を追加。
加藤雄二教授（異分野交流研究2）
金指久美子准教授（異分野交流研究1・2）

【令和元年度】

- ・科目内容を鑑みた担当者の変更。
鈴木玲子教授から川上茂信教授（異分野交流研究1・2）
金指久美子准教授から五十嵐孔一教授（異分野交流研究1・2）
早津恵美子教授から谷口龍子准教授（言語教育論2）
早津恵美子教授から友常勉教授（Japan Studies 2）
- ・指導体制強化のため、下記の教員を追加。
佐藤正広教授（日本政治経済論1・2）
春名展生准教授（日本政治経済論1・2）
- ・専任教員退職のため、専任教員等の配置の変更。
伊東祐郎教授（日本語教育論1・2）
- ・専任教員特別研修のため、専任教員等の配置の変更。
鈴木智美教授（日本語教育論1）
中井陽子准教授（日本語教育論1）

【令和2年度】

- ・科目内容を鑑みた担当者の変更。
川上茂信教授から匹田剛教授（異分野交流研究1・2）
五十嵐孔一教授から萬宮(小牧)健策准教授（異分野交流研究1・2）
- ・指導体制強化のため、下記の教員を追加。
伊集院郁子教授（日本語教育論1・2）
ポーター・ジョン准教授（日本歴史社会論1・2）
- ・専任教員昇任のため、専任教員等の配置の変更。
中井陽子教授（日本語教育論2）
- ・専任教員退職のため、専任教員等の配置の変更。
早津恵美子教授（日本語論1・2、Japan Studies 2）
藤森弘子教授（日本語教育論1・2）
宮城徹教授（日本歴史社会論1・1）
- ・2019年度専任教員特別研修のため未開講であった科目の開講のため、専任教員等の配置の変更。
鈴木智美教授（日本語教育論1）
- ・専任教員特別研修のため、専任教員等の配置の変更。
海野多枝教授（日本語教育論2）

- (注) ・ 変更内容を簡条書きで記入してください。変更がない年度は「特になし。」と記入してください。
- ・ **認可で設置された学部等の専任教員を変更する場合は**、当該専任教員が授業を開始する前に必ず「専任教員採用等設置計画変更書」を提出し、大学設置・学校法人審議会による教員資格審査（AC教員審査）を受けてください。**AC教員審査を受けずに専任教員として授業等を担当することは出来ません。**
 - ・ 「専任教員採用等変更書（AC）」を提出し「可」の教員判定を受けている場合は「〇年〇月教員審査済」と記入してください。
 - ・ なお、設置認可審査時に教員審査省略となっている場合は、「教員審査省略」と記入してください。
 - ・ 不要な年度（平成30年度開設であれば平成29年度）の表は適宜削除してください。

(2) 専任教員数等

(2) - ① 設置基準上の必要専任教員数

完成年度時における 設置基準上の必要研究 指導教員数	うち、完成年度時に おける設置基準上の 必要教授数	完成年度時における 設置基準上の必要研究 指導補助教員数
5	4	0
名	名	名

(注) ・ 大学院に専攻ごとに置くものとする教員の数について定める件（平成十一年九月十四日文部省告示第七十五号）により算出される教員数を記入してください。

(2) - ② 専任教員等数【大学院】

設置時の計画						現在（報告時）の状況					
教授	准教授	講師	助教	計 (A)	助手 (A')	教授	准教授	講師	助教	計 (B)	助手 (B')
5	5	0	0	10	0	11	5	0	0	16	0
(12)	(4)	(0)	(0)	(16)	(0)						
研究指導教員 数	研究指導補助 教員数	講義のみ担当 の教員数	/			研究指導教員 数	研究指導補助 教員数	講義のみ担当 の教員数	/		
10	0	0				16	0	0			
(16)	(0)	(0)				(16)	(0)	(0)			
現在（報告時）の完成年度時の状況						現在（報告時）の完成年度時の計画					
教授	准教授	講師	助教	計 (C)	助手 (C')	教授	准教授	講師	助教	計 (D)	助手 (D')
11	5	0	0	16	0	11	5	0	0	16	0
[6]	[0]	[0]	[0]	[6]	[0]	[6]	[0]	[0]	[0]	[6]	[0]
研究指導教員 数	研究指導補助 教員数	講義のみ担当 の教員数	/			研究指導教員 数	研究指導補助 教員数	講義のみ担当 の教員数	/		
16	0	0				16	0	0			
[6]	[0]	[0]				[6]	[0]	[0]			

(注) ・ 「設置時の計画」には、設置時に予定されていた完成年度時の人数を記入するとともに、() 内に開設時の状況を記入してください。
 ・ 「現在（報告時）の状況」には、報告年度の5月1日の教員数（実人数）を記入してください。
 ・ 「**現在（報告時）の完成年度時の状況**」には、「**現在（報告時）の状況**」に記入した数字に、**教員審査を要済みであり、完成年度までに就任する教員数を加えた数を記入**するとともに、[] 内に設置時の計画との増減数を記入してください。（記入例：1名減の場合：△1）
 ・ 「現在（報告時）の完成年度時の計画」には、予定されている完成年度時の人数を記入するとともに、[] 内に設置時の計画との増減数を記入してください。（記入例：1名減の場合：△1）
 ・ 専門職大学院の場合は、「研究指導教員」を「研究者教員」と、「研究指導補助教員」を「実務家教員」と修正して記入してください。

(2) - ③ 年齢構成

年齢構成		
定年規定の定める 定年年齢（歳）	報告時（上記 (B)）の教員の うち、定年を延長 して採用している 教員数	完成年度時（上記 (C)）の教員う ち、定年を延長し て採用する教員数
63～65	0	1
歳	名	名

(注) ・ 「年齢構成」には、当該学部における教員の定年に関する規定に基づく定年年齢（特例等による定年年齢ではありません）、及び、報告年度の5月1日現在、定年に関する規定に基づく特例等により定年を超えて専任教員として採用されている教員数及び完成年度時に定年を超えて専任教員として採用する教員数を記入してください。
 ・ なお、職位等によって定年年齢が異なる場合には、職位ごとの定年年齢を「定年規定の定める定年年齢」に二段書きで記入し、「定年を延長している教員数」には合算した数を記入してください。

(2) - ④ 設置時の計画に対する教員充足率

$$\frac{\text{現在（報告時）の完成年度時の状況(C)}}{\text{設置時の計画(A)}} = \frac{16}{10} = \boxed{160} \%$$

(注) ・ 小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。

(2) - ⑤ 現在（報告時）の状況における定年を延長している教員構成率

$$\frac{\text{報告時の教員のうち、定年を延長して採用している教員数}}{\text{現在（報告時）の状況(B)}} = \frac{0}{16} = \boxed{0} \%$$

(注) ・ 小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。

(2) - ⑥ 設置時の計画に対する助手充足率

$$\frac{\text{現在（報告時）の完成年度時の状況(C)}}{\text{設置時の計画(A')}} = \frac{0}{0} = \boxed{\#DIV/0!} \%$$

(注) ・ 小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。

(3) 専任教員辞任等の理由

(3) - ① 専任教員の就任辞退（未就任）の理由及び後任補充状況

番号	職位	専任教員氏名	時期	必修・選択・自由の別	担当予定科目	後任補充状況	就任辞退（未就任）の理由			
1	准教授	菅長理恵	H29.12	選択	日本語文学・文化論 1	①	科目内容を鑑みた担当者変更のため (30)			
				選択	日本語文学・文化論 2	①				
2	准教授	春名展生	H29.12	選択	日本政治経済論 1	①	科目内容を鑑みた担当者変更のため (30)			
				選択	日本政治経済論 2	①				
合計 (D)					後任補充状況の集計 (E)					
就任を辞退した教員数		担当科目数の合計 (a) + (b) + (c)			①の合計数 (a)		②の合計数 (b)		③の合計数 (c)	
2	人	必修	0	科目	必修	0	科目	必修	0	科目
		選択	4	科目	選択	4	科目	選択	0	科目
		自由	0	科目	自由	0	科目	自由	0	科目
		計	4	科目	計	4	科目	計	0	科目

- (注) ・ 認可時又は届出時以降、就任を辞退した全ての専任教員の就任辞退の理由を具体的に記入してください。
- ・ 「就任辞退（未就任）」とは、認可又は届出時に就任予定としながら、実際には就任しなかった教員のことで、就任した後に辞任した教員は、以下「(3) - ②専任教員辞任の理由及び後任補充状況」に記入してください。
 - ・ 昨年度の報告後から今年度の報告時まで専任教員が新たに就任を辞退した場合、**赤字**にて記入するとともに、「就任辞退（未就任）の理由」に就任辞退の理由等及び（ ）書きで報告年度を記入してください。
 - ・ また、担当予定であった科目の後任補充の状況について、各科目ごとに状況を以下「①」～「③」から選択し、「後任補充理由」の欄にその数字を記載してください。

- ・ 専任教員が担当する（している）場合は「①」
- ・ 兼任兼任教員が担当する（している）場合は「②」
- ・ 後任未定、科目廃止など、上記「①」「②」以外の場合は「③」

(3) - ② 専任教員辞任の理由及び後任補充状況

番号	職位	専任教員氏名	時期	必修・選択・自由の別	担当予定科目	後任補充状況	辞任等の理由			
1										
2					該当なし					
合計 (F)					後任補充状況の集計 (G)					
辞任した教員数		担当科目数の合計 (a) + (b) + (c)			①の合計数 (a)		②の合計数 (b)		③の合計数 (c)	
0	人	必修	0	科目	必修	0	科目	必修	0	科目
		選択	0	科目	選択	0	科目	選択	0	科目
		自由	0	科目	自由	0	科目	自由	0	科目
		計	0	科目	計	0	科目	計	0	科目

- (注) ・ 一度就任した後に、**定年による退職以外の理由で辞任した全ての専任教員**について記入してください。
- ・ 昨年度の報告後から今年度の報告時まで専任教員が新たに辞任等した場合、**赤字**にて記入するとともに、「辞任等の理由」に辞任理由等及び（ ）書きで報告年度を記入してください。
 - ・ また、担当予定であった科目の後任補充の状況について、各科目ごとに状況を以下「①」～「③」から選択し、「後任補充理由」の欄にその数字を記載してください。

- ・ 専任教員が担当する（している）場合は「①」
- ・ 兼任兼任教員が担当する（している）場合は「②」
- ・ 後任未定、科目廃止など、上記「①」「②」以外の場合は「③」

(3) -③ 上記(3) -① ・ (3) -② の合計

合計(D) + (F)			後任補充状況の集計(E) + (G)					
辞任等した教員数	担当科目数の合計(a) + (b) + (c)		①の合計数(a)		②の合計数(b)		③の合計数(c)	
2 人	必修	0 科目	必修	0 科目	必修	0 科目	必修	0 科目
	選択	4 科目	選択	4 科目	選択	0 科目	選択	0 科目
	自由	0 科目	自由	0 科目	自由	0 科目	自由	0 科目
	計	4 科目	計	4 科目	計	0 科目	計	0 科目

(3) -④ 設置時の計画に対する教員辞任率

$$\frac{(3) - ③ \text{合計(D)+(F)}}{(2) - ② \text{設置時の計画(A)}} = \frac{2}{10} = \boxed{20} \%$$

(注) ・ 小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。

(3) -⑤ 定年により退職した専任教員に対する後任補充状況

番号	職位	専任教員氏名	必修・選択・自由の別	担当予定科目	後任補充状況	辞任等の理由		
1	教授	伊東 祐郎	選択	日本語教育論 1	①	H31. 3. 31付け63歳で定年退職(元)		
			選択	日本語教育論 2	①			
2	教授	早津 恵美子	選択	日本語論 1	①	R2. 3. 31付け65歳で定年退職(2)		
			選択	日本語論 2	①			
			選択	Japan Studies 1	①			
3	教授	藤森 弘子	選択	日本語教育論 1	①	R2. 3. 31付け65歳で定年退職(2)		
			選択	日本語教育論 2	①			
4	教授	宮城 徹	選択	日本歴史社会論 1	①	R2. 3. 31付け63歳で定年退職(2)		
			選択	日本歴史社会論 2	①			
合計			後任補充状況の集計					
辞任した教員数	担当科目数の合計(a) + (b) + (c)		①の合計数(a)		②の合計数(b)		③の合計数(c)	
4 人	必修	0 科目	必修	0 科目	必修	0 科目	必修	0 科目
	選択	9 科目	選択	9 科目	選択	0 科目	選択	0 科目
	自由	0 科目	自由	0 科目	自由	0 科目	自由	0 科目
	計	9 科目	計	9 科目	計	0 科目	計	0 科目

- (注) ・ **定年により退職した全ての専任教員**についてに記入してください。
- ・ 昨年度の報告後から今年度の報告時まで専任教員が新たに辞任等した場合、**赤字**にて記入するとともに、「辞任等の理由」に辞任理由等及び()書きで報告年度を記入してください。
 - ・ また、担当予定であった科目の後任補充の状況について、各科目ごとに状況を以下「①」～「③」から選択し、「後任補充理由」の欄にその数字を記載してください。

- | |
|---|
| <ul style="list-style-type: none"> ・ 専任教員が担当する(している)場合は「①」 ・ 兼任兼担教員が担当する(している)場合は「②」 ・ 後任未定、科目廃止など、上記「①」「②」以外の場合は「③」 |
|---|

(4) 専任教員交代に係る「大学の所見」及び「学生への周知方法」

【大学の所見】
 定年により退職した専任教員が担当していた科目については、設置計画時に当該教員の退職を見込んだ上で、必要な担当教員を配置しているため、修了までに必要な科目履修に大幅な影響はない。

【学生への周知方法】
 授業時間割には交代前の教員の授業は記載せず、履修計画に影響がないように周知をした。

- (注) ・ 上記(3)の専任教員辞任等による学生の履修等への影響に関する大学の所見、学生への周知方法、今後の方針などを可能な限り具体的に記入してください。

6 附帯事項等に対する履行状況等

区 分	附 帯 事 項 等	履 行 状 況	今後の の実施計画
		<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block;">該当なし</div>	

- (注) ・ 「認可時」には、認可時または届出時に付された附帯事項（学校法人の寄附行為又は寄附行為変更の認可の申請に係る附帯事項を除く。）と、それに対する履行状況等について、具体的に記入してください。
- ・ 「設置計画履行状況調査時」には、当該年度の調査の結果、**当該大学に付された指摘を**全て記入するとともに、付された指摘に対する履行状況等について、具体的に記入してください。その履行状況等の参考となる資料があれば、添付してください。
 - ・ 「履行状況」では、履行中であれば「履行中」、履行が完了していれば「履行済」を選択してください。
 - ・ 該当がない場合には、「附帯事項等」の部分に「該当なし」と記入してください。
 - ・ 「設置計画履行状況調査時」には、当該調査の実施年度の年を記入してください。

7 その他全般的事項

<総合国際学研究科 国際日本専攻>

(1) 設置計画変更事項等

設置時の計画	変更内容・状況、今後の見通しなど
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block;">該当なし</div>	

(注) ・ 1～6の項目に記入した事項以外で、設置時の計画より変更のあったもの（未実施を含む。）及び法令適合性に関して生じた留意すべき事項について記入してください。

(2) 教員の資質の維持向上の方策（FD・SD活動含む）

<p>① 実施体制</p> <p>a 委員会の設置状況 学部・大学院合同のFD委員会を中心にFD活動の企画・運営を行っている。[別添資料]</p> <p>b 委員会の開催状況（教員の参加状況含む） 令和元年度の実施状況については、計8回開催し、委員の出席率は良好であった。</p> <p>c 委員会の審議事項等 授業の改善に関して、企画、立案、実施、調整等を行う。</p> <p>② 実施状況</p> <p>a 実施内容 評価基準の可視化等の教育手法の改善に向けた取組紹介のほか、アカデミックハラスメントや留学生サポートの手立て等の学生支援全般についても幅広く研修を行っている。</p> <p>b 実施方法 教授会の開催前等、教員の参加しやすい時間帯に設定している。</p> <p>c 開催状況（教員の参加状況含む） 令和元年度は計8回実施し、平均して1回あたり約130名の参加を得た。これは教授会構成教員の約7割に及ぶ。</p> <p>d 実施結果を踏まえた授業改善への取組状況 「Moodle（教育・学習活動支援システム）を利用した授業の実践」、「成績問い合わせの実例とシラバス作成の留意点」等、授業に直結した事例の紹介を行い、各教員の授業改善に資した。</p> <p>③ 学生に対する授業評価アンケートの実施状況</p> <p>a 実施の有無及び実施時期 有 毎年12月～1月</p> <p>b 教員や学生への公開状況、方法等 学務情報システムによるアンケートにより実施</p>
--

(注) ・ 「①a 委員会の設置状況」には、関係規程等を転載又は添付すること。
「②実施状況」には、実施されている取組を全て記載すること。（記入例参照）

(3) 教育課程連携協議会に関する事項

※専門職大学、専門職短期大学、専門職大学院以外は「該当なし」と記入ください。

① 体制

a 委員会の設置状況

(委員に変更がある場合は、その内容と各区分を踏まえた委員構成であることを説明してください。
併せて、別途委員名簿を変更内容が分かるよう加筆の上、提出してください。)

b 委員会の開催状況 (回数や開催日など)

c 委員会の審議事項等

該当なし

d その他

② 審議状況

a 審議した内容

記入例)

- ・ 地域との連携に関する〇〇の観点から教育課程に対する提案内容
- ・ 産業界との連携に関する〇〇の観点から教育課程に対する提案内容

b 教育課程連携協議会が審議した内容を踏まえた大学での教育課程への見直し状況

c 教育課程連携協議会が審議した内容を踏まえた大学での教育課程への反映状況

(4) 自己点検・評価等に関する事項

① 設置の趣旨・目的の達成状況に関する総括評価・所見

設置の趣旨・目的を達成するよう、計画通りに実施している。今後更に教育・研究の水準の向上を図り、設置の趣旨・目的の実現に向けて取り組むこととしている。

② 自己点検・評価報告書

a 公表（予定）時期

- ・令和2年度に自己評価を行い、令和3年6月以降に公表予定

b 公表方法

- ・大学ホームページ上に公開予定

③ 認証評価を受ける計画

- ・令和元年度に評価機関（独立行政法人大学改革支援・学位授与機構）の評価を受審済み

(注) ・ 設置時の計画の変更（又は未実施）の有無に関わらず記入してください。

また、「① 設置の趣旨・目的の達成状況に関する総括評価・所見」については、できるだけ具体的な根拠を含めて記入してください。

なお、「② 自己点検・評価報告書」については、当該調査対象の組織に関する評価内容を含む報告書について記入してください。

(5) 情報公表に関する事項

○ 設置計画履行状況報告書（令和2年度）

a 公表予定の有無 [有 ・ 無]

《 a で「有」の場合 》

b 公表（予定）時期 [調査結果公表後 1ヶ月以内 ・ 公表後2～3ヶ月以内 ・ 公表後3ヶ月以降]

c 公表方法 [ウェブサイトへの掲載 ・ その他 ()]

《 a で公表「無」の場合 》

d 公表しない理由 []

※設置計画が各大学等が社会に対して着実に実現していく構想を表したものであることに鑑み、

設置計画履行状況報告書については、各大学等のウェブサイト公表するなど、積極的な情報提供をお願いします。

東京外国語大学学部・研究科 FD委員会規程

〔平成16年 4月 1日
規 則 第 91 号〕

平成18年11月29日規則第70号 平成21年 3月31日規則第92号
平成25年 6月25日規則第38号 平成31年 2月25日規則第80号

(設置)

第1条 東京外国語大学の授業改善に資するため、学部・研究科FD委員会（以下「委員会」という。）を置く。

(組織)

第2条 委員会は、次の各号に掲げる委員をもって組織する。

- (1) 副研究科長のうち、研究科長が指名する者1名
- (2) 研究科教授会構成員のうち、研究科長が指名する者2名
- (3) 言語文化学部教授会構成員のうち、言語文化学部長が指名する者2名
- (4) 国際社会学部教授会構成員のうち、国際社会学部長が指名する者2名
- (5) 国際日本学部教授会構成員のうち、国際日本学部長が指名する者1名
- (6) 委員会が必要と認める者 若干名

(任期)

第3条 前条第2号及び第4号の委員の任期は、2年とし、毎年各半数が交替することとする。なお、委員の再任は妨げない。

2 前条第5号の委員の任期は、委員会が必要と認める期間とする。

3 委員に欠員を生じた場合の後任の委員の任期は、前任者の残任期間とする。

(所掌事項)

第4条 委員会は、授業の改善に関して、企画、立案、実施、調整等を行う。

(会議)

第5条 委員会に、委員長を置き、委員長は、第2条第2号から第5号に掲げる委員のうちから互選する。

2 委員長は、会議を招集し、その議長となる。

3 会議は、委員の過半数が出席しなければ開催することができない。

4 議事は、出席者の過半数をもって決し、可否同数のときは、議長の決するところによる。

5 委員長に事故あるときは、あらかじめ委員長の指名する委員がその職務を代行する。

(報告)

第6条 委員会は、必要に応じ、所掌事項に関する検討結果を学部教授会及び研究科教授会に報告する。

(委員以外の者の出席)

第7条 委員会は、必要に応じ委員以外の者を出席させて、意見を聴くことができる。

(庶務)

第8条 委員会に関する庶務は、学務部教務課において処理する。

(細目)

第9条 この規程に定めるもののほか、委員会の運営に関し必要な事項は、委員会の議を経て委員長が定める。

附 則

この規程は、平成16年4月1日から施行する。

附 則

- 1 この規程は、平成18年11月29日から施行し、平成18年11月1日から適用する。
- 2 この規程施行の際、改正後の規程第2条第2号の委員は、改正前の規程第2条第3号から選出された者とみなし、委員の任期は、平成19年3月31日までとする。

附 則

この規程は、平成21年4月1日から施行する。

附 則

この規程は、平成25年6月25日から施行し、改正後の国立大学法人東京外国語大学言語文化学部・国際社会学部・大学院総合国際学研究科FD委員会規程は、平成25年4月1日から適用する。

附 則

この規程は、平成31年4月1日から施行する。